

同志社大学経済学部 同経会

同経会報



No. 89



同志社大学経済学部 同経会

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL : 075-251-3524 FAX : 075-251-3136
URL : www.dokeikai.com

2023年4月 発行
編集：総務・支援委員会(広報・HPチーム)
発行人：同経会会長 田堂哲志

目次

Contents

同経会会長からのご挨拶	03
経済学部長からのご挨拶	04
特別インタビュー	05
総会・卒業生のつどい	09
なごや(和や)のつどい	11
ビジネス交流会(大阪)	12
第10回大阪支部のつどいのご案内	13
2023年度のイベント案内	14
同経会賞授与式と受賞者からの便り	15
卒業生からの便り	17
現役学生が語る「わがゼミ」	18
退任の先生からのご挨拶	29
新任の先生からのご挨拶	31
2022年度 定時総会報告	32
名刺広告	41
寄付へのお礼とご報告	47
編集後記	48
同経会役員名簿	49

49 48 47 41 32 31 29 18 17 15 14 13 12 11 09 05 04 03

同経会会長からのご挨拶

同経会会長 田堂 哲志



Greeting

2023年の同経会報発刊の運びとなりました。

ここ数年、コロナもあり「大変や!」という言葉が当たり前のように使われてきましたが、昨年は更にとんでもない事件や事故が多発する年となりました。しかもそれらは一過性のもではなくしばらく続きそうな気配です。

従来は、政治と経済はお互いに関係性はあるものの夫々独立したものと考えられていましたが、いまや経済は政治に大きく影響されることが鮮明になりました。

私たちが住むこの国においても決して対岸の火事ではありません。経済の成長は国家の極めて重要な課題

経済学部長からのご挨拶

経済学部長 宮本 大



Greeting

2022年度より経済学部長を務めております宮本でございます。同経会の皆さまにおかれましては、平素より経済学部・経済学研究科の教育ならびに研究活動に多大なるご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

同経会の皆さまには、様々な面から経済学部をサポートいただいておりますが、特に昨年度は、学生有志が集まり研究プロジェクトを立ち上げ、調査、研究を推進していく『学生プロジェクト』というプログラムにおいて京都の企業と学生とのコラボレーションをアレンジしていただき、多くの学生がプログラムに参加

ですが日本の国際競争力の相対的低下は明白です。しかしながら人類が引き起こしたものは、自分たちの力で自分たちが解決するしかありません。どのような環境下であろうとも決して諦めず前を向き一歩ずつ前進し続けるしかないのです。

さて、私たち同経会は設立して60年を迎えました。その歴史を振り返れば本当に多くの企画を策定し経済学部ならびに学部生、そして卒業生の皆様に貢献して参りました。それは大きな成果となりましたが、残念なことにごどこかで途切れてしまいました。

今一度、同経会の存在意義を確認し、継続し活性化の中でその価値を更に高める活動をめざすことに致しました。

改めて、同経会の使命は経済学部。その学部生への貢献とOGBとなられた卒業生の皆様が参画するメリットを感じて頂ける機会提供を両輪と考えております。

例えば、2022年度は学生が課外活動として主体的に企業に向き企業を抱える課題を彼らの視点で企業に提案する活動を企業へ橋渡しして参りました。採用される成果も出ています。さらに経済学部とのコミュニケーションを強化しながら、大学、学生のニーズを理解しながら新たな企画の提案をする所存です。資格取得支援、海外インターシップ支援、就職支援など学外とのアクセスのサポートを目指します。また、卒業生の皆様には「ビジネス交流会」を企画、開催いたしました。業種、業界別にテーブルを設け同じ世界で戦う同窓生同志の情報交流、意見交換でした。その場に私も立ち会いましたが、その熱気の凄さに大変驚き、また感動しました。

同窓会は勿論親睦の会であります。一方で社会に活

いたしました。また、毎年卒業式の時期に学生を表彰いただいております同経会賞では、これまでの成績優秀者だけでなく、課外活動において顕著な評価を受けた学生にも受賞機会を拡大していただきました。積極的に新しい取り組みを行っていただいておりますこと、改めて感謝申し上げます。

そして、今年度は、これまでコロナ禍により中断しておりました海外インターシッププログラムを同経会の皆さまのご尽力を得て再開することになりました。海外インターシップは、単に、仕事の場を体験するだけではなく、グローバル化する社会を踏まえて海外で働くこと、日本とは異なる文化や生活を体験するといったプログラムとなっております。経済学部では人材養成の目的として、「国際化する経済・社会の状況に対応し、広く社会のために行動しうる、自立自立の人物を養成すること」と掲げており、この目的の達成に、海外インターシップは非常に重要な役割を果たしております。また在学学生だけでなく、本学経済学部を志望する高校生にも高く評価されております。海外インターシップを通じて、同経会、学生、教職員が連携を取り、互いに成長できる機会となることを非常に楽しみにしています。

先述の通り、経済学部では、学生たちに「広く社会のために行動しうる、自立自立の人物になること」を求めています。単に知識を蓄積するだけでなく、学んだ知識を利用して社会に貢献することが大切です。しかし学生たちの多くは具体的にどのような知識を利用して、どのように社会に貢献することができるのかから不安を抱えています。同経会の皆さまには、学生プロジェクト、海外インターシップや、新たなプ

躍するOGBの皆様の琴線に触れるような企画も同様に大事であると考えています。今後このような企画を更に増やしてゆく所存です。

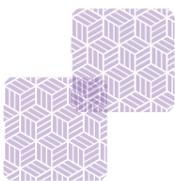
同志社大学経済学部の在校生、卒業生の皆様、皆様は「大学を卒業したら母校との関係は終わり、あとは自分の力で人生を切り開いて行くんだ、仕事もとても忙しく母校のことを想ったり、支援したりする余裕はない」と考えておられる方は決して少なくないでしょう。しかしながら母校同志社との関係は決して一過性のものではありません。いつか必ず同志社を、同志社の仲間とかかわることに意義がある時がきます。少なくとも同経会は常に門戸を開けていつまでも皆様を応援し続けます。

経済学部の卒業生の内、約33000名の存在を確認しています。残念ながら同経会の会員名簿は約2400名です。今迄紙媒体に依存してきた情報発信から通信媒体へ舵を切り新たな情報発信をスタートします。皆様の同経会であるために一歩ずつ改革を進めて参ります。どうか皆様、同経会に少しでも関心を持っていただき同経会に参加されご支援、ご協力をお願いいたします。

最後に皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

プログラムを通じて、そうした学生の不安を受け止めていただく機会を学部と共創していただけると非常に嬉しい限りです。

期待やお願いはばかりで大変恐縮ではございますが、同経会の皆さまにおかれましては、経済学部・経済学研究科のこれまでの取り組みのみならず、また新しい取り組みにもご理解を頂き、なお一層のご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。





特別インタビュー
株式会社池田泉州銀行名誉顧問
服部 盛隆 氏
Interview

先輩方からお話をお伺いする特別インタビュー。今回は同経会名誉顧問で第9代会長を務められた服部盛隆氏にお伺い致しました。

出身地は

元々は祖父の代まで京都の淀です。今もお寺は淀の東蓮寺です。淀藩の稲葉家は老中職をつとめるなど当然ながら幕府方でしたが、鳥羽伏見の戦いで官軍の錦の御旗に抗するわけにもいかず、京から逃れてきた新選組などに城門を閉ざしたと聞いております。その結果として私の祖父も生きながらえて父が生まれ私も生まれた訳ですが、父の代になって川西に移り住んでもう100年近くになります。

高校はどちらですか

兵庫県立伊丹高校です。県下で5〜6番目に古い旧制中学校で、校風は質実剛健、軍人などを多く輩出したそうです。同志社大学に進んだのはある種の地縁人縁からです。

父親の旧制中学は京都市内ですし、母親は広島のみづしヨンスクールでしたので、京都にあるキリスト教の同志社は自然の流れのような感覚でした。

大学では弓道部に

高校時代には、授業で剣道や柔道をやった経験がありました。大学で弓道部に入学しました。先祖が柔術指南をやっていたので何らかの武術をやりたいと思っており。弓道部には2回生の時に遅れて入学しましたが、当時の1回生の皆さんと一緒に1年間は道場の掃除や的張りなどをしっかりとやりました。猛特訓の甲斐があつて幸運にも学生時代に四段まで進みましたが、学生の四段はあまり多くなかったように思います。

はそんなに遅くまで練習していた訳でなくて、5時から6時くらいには帰りました。

ゼミはどちらでしたか

統計学の宗藤先生のゼミです。先生は同志社から京大の大学院に進まれました方ですが、私は統計学が好きでゼミに入れてもらいました。卒業して数年後に先生はお亡くなりになりましたが、「良心」をいつも感じるお方でした。お世話になりました、有難うございました。

銀行に就職した理由は

池田銀行は戦後派の地銀ですが、もともと池田実業銀行があつて池田銀行の創業者の清瀧幸次郎頭取は池田実業銀行の元頭取で、素晴らしい方だと父親から聞かされておりました。転勤が少ないし私でも少しぐらいは地域貢献のお手伝いができるかもしれないと池田銀行を選びましたが、幸いにも入ることができました。

銀行での仕事は

初めて配属されたのは本店営業部で、1年ほどかけてぐるぐると色々な仕事を体験させてもらつて、その後定着して2年あまり貸し付け係を経験しました。当時の係長さんには徹底して銀行の融資を学ばせてもらいました。その後支店に転勤となりましたが、支店長は同志社の先輩でした。

仕事の中身は自分の期待したものではなくて、憂鬱な毎日ですが、「辞表」をポケットに忍ばせて通勤する毎日でしたが、実はこの時の体験・経験がその後の銀行生活に大きな影響を与えました。

学生生活はどのように...

授業は、ゼミと専門科目はきっちり出席しました。弓道場は新町校舎の北側にあつて、授業の合間に（というか練習の合間に授業というべきか）必ず道場に行っていました。当時の弓道部は、もちろん1部リーグで強かったと記憶しています。優勝を逃した時には丸坊主になりました。

私の試合デビューは対京大戦で、副将に替わつて途中出場でしたが、4射のうち3射を的に当て、あとの1射で皆中となつて皆さんから拍手をいただくことになるなど感じたとき、足が地につかず矢はみじめに地面を擦りました。

恥ずかしかったと今でも思い出されます。

合宿も大変きつかったです。三島大社の道場とか高知城の道場とか強く印象に残っています。

弓に関連して、新島先生が詠まれた詩があります。「石かねも 透れかしてとてひと筋に 射る矢にこむる 大丈夫の意地」

感慨を感じる詩ですが、先生はラグビー部の部屋にも素晴らしい言葉を残しておられます。

「男児一戦して敗れるも止むなかれ。再戦して止むなかれ。三戦して止むなかれ。刀折れ矢尽きても止むなかれ。骨砕け血尽きて止むべきのみ」

先生のこのような素晴らしい一面に触れられて幸いです。

京都では下宿でしたか

自宅から通っていました。時に友人の下宿にもぐりこんだこともありましたが、弓道部

通学に1時間4〜50分ほどかかりましたが、弓道部



審査部での仕事の中で、かなり特殊な仕事もしました。いわゆる「貸出稟議制度」の改定です。稟議書そのものから付属の資金繰り・中長期資金移動表などを改

行員生活に大変貴重なものとなりました。はやまらなくて良かったと思つるとともに、私にとつてその先輩支店長は大恩人です。

その後、東京支店の開設メンバーとなつて貴重な体験をし、その次の職場は自分でも一番勉強した審査部で、その後再び東京勤務となり、その後業務企画部として支店を経験し三たび東京勤務となりました。

審査の仕事は如何でしたか

審査の仕事は、自分に合つていたような気がしますが。数字は統計（学）に通じるところもありました。ただ、無口になつたような気がします。子供の頃は口から生まれたかと言われるほどにしゃべりでしたから。審査部での仕事の中で、かなり特殊な仕事もしました。

いわゆる「貸出稟議制度」の改定です。稟議書そのものから付属の資金繰り・中長期資金移動表などを改

訂し全精力を注ぎました。

審査部の7年余りは、いわゆる個別審査の担当でしたが、審査の心構えと言いますか、自分が求める生き様を三つの言葉にまとめました。

一つ、真実を追求しよう。いわゆる「ホンマかいな」の精神です。

二つ、正しく主張しよう。

三つ、大きな夢を持とう。

――役員になられてから

本部の担当役員として興味深く行ったのは、店舗や自由化に関することでした。

本来ならば、とつづくに出店しておかなければならない地域に規制や色々な事情があつて出せなかつた。そういうところに新店計画をもとに交渉を進めました。大阪市内はもちろんのこと兵庫県下の店舗にもひとつひとつ思い出があります。

私は2001年に頭取になりました。清瀧一也頭取は洒落た方で1月1日、21世紀の幕開けの日です。

当時は、殆どどの金融機関でバブル経済崩壊後の「不良債権処理」が付きまといました。金融機関は不良債権の発生で直接的に潰れるのではなく、「信用不安」によつて「取り付け騒ぎ」が起きて「資金繰りが成り立たず倒産する」と言われています。北海道拓殖銀行、山一証券、近くの信用組合や地域金融機関が倒産しました。銀行員など大量に失業しました。地域の企業も主力銀行から資金調達ができず数多く倒れました。

倒産は家族や地域の皆さんへの影響が大きく、銀行

のご協力を得て関西活性化シンポジウムを開催しました。

――最後に新しい卒業生への激励

先ずは、やはり「好きで楽しみながらやれる仕事」を選ぶことだと思います。

残念ながら選ばなかつた方は、今の仕事の中で「好きな部分」を探すように努めることですね。

生存競争が激しい女子プロゴルフ界にあつて、西村優菜さんがアメリカツアーに挑戦され残念ながら24位になりました。すべてのツアーには参加できない結果ということですが、その時に涙を浮かべて「強くなりたい」と言われたインタビューが強烈に印象に残っています。今でも強いゴルファーですが、その彼女が日頃言っているのが「楽しみながらやっています」です。

それから相矛盾することですが、嫌な仕事でも嫌がらないでください。

私の例を出すまでもなく嫌な仕事があつても、その経験が先々に大変役立つことがあります。人生は長いということでしょうか。

最後に、同志社で学んだ「良心」です。

短期的には「良心」よりも違つた心が勝つ場合があります。しかし長い一生を通じて「良心」は間違いなく強いと思います。

新島先生と同志社で学ばれた「良心を全身に充満して」社会人を楽しんで下さい。



のトップとして絶対に避けなければならぬと固く決意をしました。阪急電鉄さんや地域の皆さんの応援もありました。赤字決算も断行しました。有価証券の減損処理も厳しい30%ルールを採用しました。赤字決算は勇気がいります。諸先輩から厳しいお叱りもありましたが、お陰様で「経営の透明性」は確保できました。

――新しいことにも取り組みました

池田銀行のモットーは「親切で新しい」です。新し

いことにも取り組みました。

一つが、「ニュービジネスの応援」です。最優秀賞には3百万円を提供しましたが、入選された方から3百万円よりも池田銀行で入選し社会的にも認められたのが嬉しいと言つて頂きました。嬉しい限りでした。

「ICカード」にも取り組みました。三菱銀行さんが初めて作られたのですが、NTT.COMさんのご協力を実証実験を繰り返し、遅れること数か月で世に出すことができました。

その後ICカードは発展して「おろす」「使う」「電車に乗る」の機能を持ちました。私は今も使っておりますが、大変便利です。

大阪梅田にビルを建てて本店を池田市から梅田に移したのもこのころで、泉州銀行との合併も進めました。

――グローバルへの取組み

地銀として初めて中国の蘇州市に駐在員事務所を出しました。

蘇州は上海から100キロ余りで、池田市と友好都市でありました。そして何よりもシンガポールと合併で大阪市の面積に匹敵するような大規模開発（蘇州市工業園区）がなされて発展は間違いないと確信しました。

蘇州市で、海外シンポジウムを行いました。日本と上海界隈の著名な大学の総長さん方とグローバル人材の育成をテーマにしたものでした。

シンポジウムの最終回は大阪で、ダイキン工業の井上さん（現同経会名誉顧問）やサントリーの鳥井さん



開催報告 総会・卒業生のつどい

文・長田 宏（昭和52年卒）

Report



同志社大学経済学部「卒業生のつどい」が、2022年7月9日（土）からすま京都ホテル（四条烏丸）で、先生、会員約70名の参加を得て盛大に開催されました。新型コロナウイルス感染拡大のため、過去2回中止となり3年ぶりの開催となりました。本来なら、昨年度同経会創立60周年を迎える予定でした。祇園祭も3年ぶり実施され、祇園ばやしが開いてくる中、新型コロナウイルス感染に万全を期し、総会、講演会、懇親会が開催されました。総会、講演は、Web（zoom）で数名の参加を得ました。総会司会を同経会執行理事中谷豊美さん（昭和54年卒）が務められ、同経会総会よりスタートしました。

昨年10月の理事会において、服部盛隆会長（昭和41年卒）から田堂哲志会長（昭和52年卒）への交代が行われたことの報告があり、会則にのっとり田堂会長が議長になり議事が進められました。

第一号議案「2021年度事業報告並びに決算報告」第二号議案「2022年度事業計画並びに予算案」が一括上程されました。田堂会長より、同経会の現状分析をもとに、今後同経会の「ありたい姿」と具体的な活動の方向性が明示され、同経会会員増加と同経会の活動活性化のために同経会組織を「総務・支援委員会」「財務委員会」「企画委員会」「会員増強委員会」に、改編したとの報告がありました。各委員会の担当副会長・委員長から各委員会の「2022年度事業計画」が提示されました。各委員会は、テーマを掲げその実現に向けての具体的な取り組みの説明がありました。（新組織図は、後掲）

「2021年度決算報告」「2022年度予算」が鍵圭一郎専務理事（平成1年卒）より説明され、横田



聡監事（平成3年卒）より会計監査報告がありました。第1、2号議案について諮られた結果、議案通り承認されました。

続いて、第3号議案「役員改選について」田堂会長の提案通り、役員が承認されました。また、お二人の名誉会長、五人の副会長の辞任に伴い、第4号議案の「会則の改定」により、本総会終了後、名誉顧問への就任が報告されました。また、顧問の方々も名誉顧問に就任いただきました。

第4号議案「会則・個人情報取扱規定改定」について、前述の「名誉顧問」の役職の追加と会計責任者に関する記載を削除すること、会費の改定が提案されました。続いて同志社大学の保有する卒業生名簿データへすべての学部の名簿の統一化が図られことにより、大学と同経会の名簿の共同利用が開始されることに伴

い共同使用される個人情報の具体的項目と個人情報の継続的な見直しと改善を図ることが提案され併せて承認されました。

今回の総会は、会員増強・同経会活性化に向けて多くの内容の提案があり、時間をオーバーしての総会となりましたので、講演会は遅れての開催となりました。講師は、同志社大学経済学部OBで、日本ラグビーフットボール協会顧問（前副会長）、関西ラグビー協会顧問（前会長）である坂田好弘氏です。坂田氏のご希望により、中村恭俊同経会副会長（昭和60年卒）との対談方式で行われました。

講演では、坂田氏のラグビーとの出会いから、同志社大学ラグビー部時代、近鉄ラグビー部時代、ニュージーランドへのラグビー留学時代、そしてつい先ごろ引退された36年間の大阪体育大学ラグビー部監督のころのそれぞれのエピソードを織り交ぜながら、坂田氏の熱い思いを披露していただきました。

同志社大学ラグビー部では、当時の岡仁詩監督から、試合で敵をステップでうまくかわしていたにもかかわらず「ウイングは、まっすぐ走るものだ、まっすぐ走れ」という指導に困惑しながら、左右への華麗なステップが誕生したこと。近鉄時代は、駅務員や車掌しながら、花園ラグビー場で合宿し、悪コンディションの中でラグビーを続けてきたことが紹介されました。ベストコンディションはそう長くは続かないもので、悪コンディションのほうがはるかに長いものである。悪コンディションの中で実力を発揮できることの大切さを教えていただきました。車掌業務の時、駅名を覚えるのが大変だったそうです。何しろ近鉄には1600を超えてる駅があるそうです。



そして、近鉄時代に、ニュージーランドヘラグビー留学されました。地元の大学クラブ・州選抜・学生選抜でプレイされましたが、チームメンバーや現地の人々に受け入れていただくまでということが語られました。ゲストとしていつまでもいるのではなく、チームのためにどれだけ貢献するのか、どれだけ貢献したのか、その本気度や姿勢を示すことの大切さがわかりました。

同志社大学に勝つことができたその指導についてのお話がありました。特に、新島先生のお言葉がその指導の基本にあつたそうです。

坂田氏のラグビーを通しての教育者としての姿勢に感銘を受けました。苦労を苦労として語らず、淡々としたその語り口に時間を忘れて聞き入ってしまいました。

講演の後、同志社大学マンドリンクラブによる演奏がありました。マンドリンの音のさわやかさに心が癒される思いでした。たつた三曲。十分間ほどの演奏で終わったのが残念でしたが、マンドリン演奏で聞くカレッジソングは、新鮮でした。残念ながら、ここで宮本大経済学部長が所用で退席されました。

このあと、懇親会に移りました。田堂会長より開会のあいさつがあり、八田英二同志社総長・理事長の祝辞を賜ったあと、横井和彦経済学部教授の祝辞、乾杯のご発声で懇親会がスタートしました。懇親会では、年代別にテーブルを囲みました。食事中以外は、原則マスク着用と、コロナ感染対策をしながらも、和やかに懇親会されました。

最後に、小川佳秀副会長（昭和50年卒）が、閉会の辞を述べられました。例年なら、同志社カレッジソング・チェヤールを全員で声高らかに合唱するとところですが、テープで流されたカレッジソングを聞き、再会を約して散会となりました。コロナ禍で異例の懇親会となりましたが、無事「卒業のつどい」を終えることができたことが何よりの喜びでした。



開催報告
ビジネス交流会(大阪)
 文・大阪チーム長 土橋純二郎
 Report

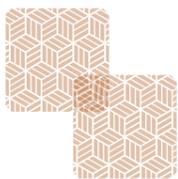


開催報告
なごや(和や)のつどい
 文・名古屋チーム長 萱原昇
 Report

思えば未曾有のパンデミックに見舞われた三か年でした(未だ予断を許さない状況ではありますが)。この地で第一回目の同経会のつどいを開催以来、漸く7月2日(土)、第二回のつどいを午後5時から名鉄グランドホテルで開催する事が出来ました。当日は同経会の田堂会長、校友会愛知支部の小栗支部長以下計34名(内他学部卒ゲスト6名)の校友の参加を戴きました。ゲスト講演は、特に若い校友の参加を期待して母校・国文科卒、体育会フエンシング部でも活躍され、卒業後JAL客室乗務員、サービスクレジットを経験された現Glitter Stage代表取締役(研修講師)の七條千恵美氏。テーマは「選ばれる人になるためのコミュニケーション・3つのチカラ」。乗務員時代の経験も踏まえて明るく解り易く語って戴きました。又、皇室チャーターフライトのクルー・メンバーに選ばれた際、現令和天皇(当時は皇太子殿下)接遇時、陛下の人間性が垣間見られる「ちよつといい話」は参加者の胸に響いたと思います。その後、座食での夕食、名刺交換タイムへとプログラムを進めました。

今回は、行政から会場ホテルへのガイドもあり、使用した部屋の定員は余裕を持った40名でしたが、少し未達の参加者34名。しかし30歳代以下の若い世代が10名を占めました。彼らが多いと会場全体にエネルギーを感じます。世代を超えた実のあるつどいの開催は同経会初めこの種の会合の大きなテーマでもあります。さらに若い世代に広く門戸を開く為、新たな企画・仕組作りが必要だと改めて感じました。

最後に、壇上の同経会旗に襟を正して全員が向き合い、勇壮な同志社交響楽団演奏のカレッジソングを大音量BGMに黙唱して今年のつどいの幕を閉じました。



2022年10月1日(土)、梅田ユーズ・ツウにて同経会ビジネス交流会大阪を開催しました。14・30に参加人数90名で開催、司会の同経会大阪副チーム長 新村明男氏から本日のプログラム説明を皮切りに、主催者紹介(同経会会長 田堂哲志氏、政法会大阪支部長 松本圭司氏、樹徳会会長 南美樹氏)、同志社校友会大阪支部副支部長 東川浩之氏の祝辞と続き、同経会大阪チーム長 土橋純二郎の乾杯で元気良く交流会がスタートしました。

まずは業種別交流会。活発な名刺交換と自己紹介が行われ、会場は熱気に包まれました。続いての3分間アピールタイムでは2000年以降に卒業した若手6

名が次々登場いただき、自身のビジネスを熱く語っていただきました。その後フリー交流。最後に次回開催幹事の政法会大阪支部長 松本圭司氏の閉会挨拶で締めくくりました。

前回、2019年の同志社ビジネス交流会は同経会大阪が単独で主催しましたが、今回は政法会大阪支部と樹徳会大阪支部のお力添えをいただいで共同で主催し、今後は毎年幹事を輪番にて継続実施することになりました。来年以降はさらに盛大に開催していきたいと存じます。皆様のご参加をお待ちしています。



2023年度の
イベント案内

2023年度同経会では
下記イベントの開催を
予定しております。
同経会員の皆様、
是非ご参加ください！

Information

■ 大阪支部のつどい

日時 5月11日(木) 18:30~21:00 会費 7,000円 (ビュッフェ、フリードリンク)
場所 ホテルモントレ大阪 講師 世耕石弘氏 (近畿大学 経営戦略本部長)
お問い合わせ先 大阪支部事務局 新村 jps.niimura@nifty.com

■ 2023年度同経会理事会 (役員のみ参加可)

日時 5月22日(月) 18:00~21:00
場所 からすま京都ホテル

■ 2023年度同経会総会・卒業生のつどい

日時 7月8日(土) 16:00~20:30 会費 7,000円 (ビュッフェ、フリードリンク)
場所 からすま京都ホテル 講師 村田晃嗣氏 (同志社大学法学部教授・元大学長)
お問い合わせ先 チーム長 近藤 spwp6rm9@road.ocn.ne.jp

■ 東海支部総会

日時 9月9日(土) 11:30~13:30 会費 7,000円 (弁当、フリードリンク)
場所 名鉄グランドホテル 講師 中西哲生氏 (サッカー解説者)
お問い合わせ先 担当 関本 shun_sekimoto@puc.aichi-pu.ac.jp

■ しめた会

日時 9月9日(土) 17:00~20:30 会費 5,000円
場所 からすま京都ホテル 講師 藤井健志氏 (株藤井大丸 代表取締役社長)
お問い合わせ先 チーム長 宮村 stmiyamura386@ybb.ne.jp 090-8937-1397

第10回 同経会 大阪支部のつどい

イベント案内

第10回目を迎える同経会大阪のつどいは今回から同経会大阪支部のつどいとして新しくスタートし、4年ぶりに開催する運びとなりました。
アフターファイブに講演会と懇親会で同経会の夕活を楽しみ、仲間を増やしてみませんか。他学部の方も参加歓迎いたします。

日時 2023年5月11日(木) 18:30~21:00 (受付18:00~)
場所 ホテルモントレ大阪7Fパルフィ
〒530-0001大阪市北区梅田3丁目3番45号
参加費 7,000円 (ビュッフェ、フリードリンク付き)
講演 「知と汗と涙の近大流コミュニケーション戦略」
近畿大学 経営戦略本部長 世耕 石弘 氏 (1992年同志社大学文学部卒)



◆講演概要

近畿大学の広報は戦略的なPR活動とメディア戦略を常に意識しており、「入れ替えなきリーグ戦」の中で、旧態依然とした大学界の常識にとらわれない広報を展開している。2021年度のリリース配信本数は408本。紙の願書を廃止した「近大エコ出願」や世界初のクロマグロ完全養殖など、SNSで拡散したくなるようなクリエイティブを投入。今回はこれまでの実例を中心に、近大流のコミュニケーション戦略についてお話しします。

◆世耕 石弘 プロフィール

奈良県出身。大学を卒業後、1992年近畿日本鉄道株式会社に入社。以降、ホテル事業、海外派遣、広報担当を経て、2007年に近畿大学に奉職。入試広報課長、入学センター事務長、広報部長、総務部長を歴任。2020年4月から広報室を配下に置く経営戦略本部長となり、現在に至る。

参加方法 右記申し込みフォーム (QRコード) から参加登録をお願いいたします。

問い合わせ 事務局 新村 jps.niimura@nifty.com



同経会賞授与式と 受賞者からの便り



同経会賞は、経済学部専門科目の総合成績が、極めて優秀であった学生上位5名を表彰する制度です。1978年に第1回の授与が行われて以来、今年3月で46回を数える歴史ある賞です。

この間、経済学部の卒業生は約6万名を超え、同経会受賞者は総計231名になりました。今年度より、この同経会賞に加え新たにアカデミア賞（学術分野での優秀な成績を表彰）とスポーツ賞（スポーツ分野での優秀な成績を表彰）を設けました。

卒業式と同じ日に授与式を挙行、各賞受賞者には賞状と記念品が授与されました、
第45回・第46回受賞者を、学籍番号順にご紹介致します。

受賞者の皆様、おめでとうございます。今後の活躍を祈念申し上げます。
第45回受賞者（2022年3月受賞）
第46回受賞者（2023年3月受賞）。

第45回同経会賞 受賞者

氏名	ゼミ
古田 花音	上田 曜子
中村 彩夏	宮崎 耕
大久保 潤一	宮崎 耕
坂本 知陽	石田 葉月
高田 晴菜	小林 千春



第46回同経会賞 受賞者

種類	氏名	ゼミ・クラブ
同経会賞	平原 知佳	東 良彰
同経会賞	加嶋 雅史	小橋 晶
同経会賞	越智 桜	上田 曜子
同経会賞	高砂 知佳	菅 一城
同経会賞	山根 吉平	
アカデミア賞	芦田 恵里子	新関 三希代
アカデミア賞	船谷 映月	新関 三希代
アカデミア賞	針原 千尋	新関 三希代
アカデミア賞	秀嶋 南歩	新関 三希代
アカデミア賞	磯部 奏斗	新関 三希代
アカデミア賞	梶 日向子	新関 三希代
アカデミア賞	蒔田 陸人	新関 三希代
アカデミア賞	松浦 凜	新関 三希代
アカデミア賞	宮川 恵太	新関 三希代
アカデミア賞	大谷 伸太郎	新関 三希代
アカデミア賞	上田 千夏	新関 三希代
アカデミア賞	渡邊 有彩	新関 三希代
スポーツ賞	東山 稜	準硬式野球部
スポーツ賞	星野 隼人	軟式野球部
スポーツ賞	諫山 響	ソフトテニス部
スポーツ賞	城 公平	軟式野球部
スポーツ賞	甲斐 元喜	準硬式野球部
スポーツ賞	木村 心	カヌー部
スポーツ賞	虎走 太輔	カヌー部
スポーツ賞	小森 一毅	ボート部
スポーツ賞	松宮 行成	カヌー部
スポーツ賞	宮本 純之介	準硬式野球部
スポーツ賞	中村 花梨	馬術部
スポーツ賞	柴原 魁人	射撃部
スポーツ賞	下川 和真	軟式野球部
スポーツ賞	田中 風舞	フェンシング部

同経会賞 株式会社NTTドコモ 〈宮崎耕ゼミ〉 中村 彩夏



の反対もあり、大学入学前は地元での進学しか選択肢がなかった状態でしたが、周囲の人からたくさんチャンスをもらって得た大学生活。与えてもらった環境は存分に活かそうと、気づけば学業やゼミ活動、課外活動などすべてにおいて全力で向き合っていた自分がいました。ときに睡眠もそっちのけで走り続けた日々もありましたが、そうした経験を通じて、一歩先にいた新しい自分に出会えたようにも思います。

卒業後は上京し、社会人として新たな環境で生活しています。度々仕事で関西に向かう機会もあり、懐かしい道や景色、聞き慣れた駅ホームのメロディや巷で飛び交う関西弁などから誇らしい大学時代を思い出し、活力ももらっています。

今後もお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに、そして恩返しができるよう、日々を大切に、彩り溢れるものにしていきます。

同経会賞 パナソニック インダストリー株式会社 〈石田葉月ゼミ〉 坂本 知陽



在学中、経済学をはじめとする学問は当然のことながら、多くの方との関わりを通して考え方や生き方についても学びました。特に石田教授には、「わからない時こそ広い視野をもつ」ことの重要性を学びました。ゼミ活動では、行き詰るたび熱力学や化学、政策学など様々な角度、切り口で広い世界に導いてくださりました。

この時に習得した「わからない時こそ視野を広げる」という技には、現在の仕事でも常日頃助けられております。新たな発見や気づきはいつも思わぬところに隠れており、視点を変えた際に出会うことがほとんどです。

今後周囲の方々への感謝と敬意の気持ちを忘れず、公私ともに困った時ほど異なる分野や考え方を取り入れる姿勢で日々邁進して参ります。

大学生活を振り返って

この度は同経会賞をいただき、大変光栄に思います。魅力溢れる恩師、友人、先輩後輩に恵まれながら過ごした4年間は私の誇りであり、この日々を与えてくださったすべての方々に感謝申し上げます。

経済的な理由や地元を離れることへ



視野を広げる

この度は同経会賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。まずは同志社で学ぶ機会を与えてくれた両親・祖父母に、真挚にご指導して頂いた石田葉月教授を代表とする教授方に、そして切磋琢磨しあつた仲間がこの場を借りて心から御礼を申し上げます。





現役学生が語る 「わがゼミ」

Seminar report

同経会賞 住友電気工業株式会社 〈小林千春ゼミ〉 高田晴菜



前向きに捉える大切さ

大学4年間の学びを経て同経会賞を頂けた事、大変光栄に思います。今振り返ると、コロナ禍で学部のディベート大会が中止になる等、制限もあつた学生生活でした。しかし、置かれた状況で出来る事を考え、挑戦したALL DOSHISHAプログラムでは、ゼミ

ミ活動とは違った新たな学びを得られました。このように何事も前向きに考えて行動する大切さを知り、それを実践する経験を積めた事が、大学生生活を通じての大きな財産です。
そして社会人1年目の今、この「前向きさ」が改めて大切だと感じています。私は現在、営業企画部に所属し、情報通信・環境エネルギー分野の営業本部の利益管理業務に携わっています。日々求められるレベルの高さに圧倒され、失敗した事実にはばかり目がいく事も多いです。しかし、そのような時こそ、今の自分が出来ている事を冷静に振り返るよう心掛けています。そして、失敗は「改善に向けて原因や対策を考え直す貴重な機会」と捉えるようにしています。今後もこの「前向きさ」を大切に、出来る事を一つずつ増やせるよう精進していきます。



卒業生からの便り

パーソルワークス
デザイン株式会社
〈八木匠ゼミ〉
中山亮介



期待7割・不安3割

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。このたび光栄にも原稿執筆を仰せつかりました、2005年卒業の中山亮介と申します。早いもので卒業から17年が経過し、母校の活動に参加する機会を作るのも難しくなりましたが、今回、執筆の機会をいただき大変嬉しく思います。

大学卒業後は就職など大きな環境の変化が待っていると思います。同社社大学卒業後の私の十数年間を振り返ってみて何か特筆するような出来事を思いつきませんでした、そのような私

でも大学卒業時と現在を比較するとかわる人や環境が大きく変わったなど素朴に感じました。最近では職場での部署異動に伴う仕事内容の変化など、期待7割・不安3割のような生活を送っています。

現代は変化の激しい時代と言われていて、私の現在の職場でも「挑戦と変革」などと企業理念を掲げていますが、安定志向で進むことは困難になっています。現在は転職により地元からは離れて東京で勤務していますが、地元元西からの転居前は、勤務地も居住地も変わるので今後どのような生活になるかと思っておりましたが、実際に異なる環境に身を置くと以前の環境との違いを感じて結構面白いと感じております。職場でも、昨春秋に入社以来所属していたIT関連の部署からアウトソーシング関連の部署異動を希望し、新しい仕事に挑戦しました。未経験の業務もあり悪戦苦闘していますが、そのまま以前の仕事を続けていると経験できなかったことも多くあります。

大学を卒業すると就職など環境の変化が待っていると思います。環境の変化による苦労や困難があるかと思いますが、是非、それら乗り越えた経験を今後の人生で生かしていただきたいと思っています。

荒渡 良ゼミ 武輪 涼

我々荒渡ゼミは、まさに黎明期にあります。昨年、新ゼミ生募集に際して定員割れであったものの、今年度は応募倍率が1倍を超えました。新ゼミ生はこう云います。「ダイヤの原石を見つけた気分だ」と。それはこれを執筆する私もひしひしと感じますが、皆にそう言わしめる要因が2つあると言えます。1つに、荒渡先生の人柄。

「荒渡先生が好きですか。」アンケートをとった晩には100%皆がYesと答えるでしょう。全ての大学教諭の中で最も聖人であると播るぎない確信でもってそう言えます。2つに、その先生が設定した、我がゼミの大原則です。①否定から入らないこと。②ゼミ活動以外に何でもいからゼミ生を巻き込んだ上で別の活動を1つすること。③の原則によりゼミ生は自由闊達に知的好奇心に従うことができ、それが①の原則により円滑に共有される。理想的な環境です。我々が荒渡ゼミの歴史を作っていくのだと自覚し、これよりも邁進して参ります。



船橋 恒裕ゼミ 李 元霽

こんにちは。船橋ゼミに所属している三回生、李元霽と申します。船橋ゼミでは、2年次秋学期から年金制度などの福祉経済に関する基礎知識についてご教授いただきました。3年次春学期に入ってから2年次で学習した知識の上に、各々が決めた課題テーマを設定し、ゼミ生同士がそれについてディベートを行いました。

トを行いました。また、毎回船橋先生からフィードバックを頂き、ディベートにおける事前準備や質疑応答のスキルを身に着けました。秋学期では各自で興味を持ったテーマを決め、卒業論文に向けた研究と発表を行っております。自分の研究したいことを自由に決められるため、非常にやりがいを感じております。また、船橋先生のフィードバックを参考にしながら自ら考え行動出来る力も身に着けることができいております。

生徒たちの自主性を尊重し、いつも温かくご指導くださる船橋先生に感謝し、これからもゼミ活動に取り組みで参ります。最後に、先輩方の益々のご活躍をお祈り申し上げます。



笠井 高人ゼミ 中尾 太紀

笠井ゼミは3年生5名、4年生1名の計6名で活動しています。経済思想史を学びつつ、社会問題や歴史、哲学に関心のある学生が積極的な議論を行っています。2年次は経済思想史の標準的な英語文献を輪読することで、経済思想の大まかな流れを掴みました。また、英語表現に触れることで経済学の概念について立体的な理解を形成するを目指しました。3年次は「経済学と哲学」というテーマの下で経済と哲学の関係を議論しました。春学期は社会科学の哲学についての入門書を輪読して、概念に親しむとともに社会科学と哲学との関連について考えました。秋学期は方法論の本を輪読することで春学期の議論を深めながら、経済学と哲学との関連について考えました。また、経済学の哲学である方法論について学ぶことで規範的分析を扱う経済学の理解を深めることを目指しました。少



人数であることをいかにした密度の高い学びができるよう、これからも励んで参ります。

北川 雅章ゼミ 日下 彪河

こんにちは。北川ゼミ2022年度副ゼミ長の日下彪河と申します。私たちは日本経済とマクロ経済について北川雅章教授を含めた24名で活動しています。2年次は書籍の研究と発表を通じて日本経済の基本について理解を深めました。3年次にはディベート大会に出場しましたが、準備過程や議論に私たちの「色」が出ていたと思います。ディベートと聞けば堅いイメージが浮かぶかもしれませんが私たちのディベートはその中に「自由さ」と「楽しさ」、そして「笑顔」が込められていました。「0から1を作る」というテーマのもと自由に活動する私たちだからこそ、このような中身が濃く楽しいディベートを作ることができたと確信しています。



正直なところ、今後どのような活動をしていくかはゼミ生全員分かつていません。しかし決まっている道を歩くのではなく、私たちが道を作っていく活動こそ北川ゼミにふさわしいと思います。最後になりますがどんな活動であっても北川ゼミ全員で、全力で駆け抜けます。

小橋 晶ゼミ 外園 花音

私たちは現在2回生21名、3回生22名、4回生18名で活動しております。今年度の3回生は春学期にビジネスアイデア大会に出場し、5チーム中3チームが本選に進むことができました。4回生の先輩方から毎週アドバイスをいただき、支えられながら達成した成果です。この経験を後輩へ繋げていけるようにより一層精進します。

秋学期には小橋ゼミ史上初の「商品開発」を行いました。山下商店様と漬物に関する新メニュー開発と株式会社NAZUNA様と新プラン開発を行い、コンペ形式で選ばれたアイデアの実現、さらに株式会社MOni様の新店舗オープンへの協力。初めての挑戦で右も左も分からない私たちが、ゼミ内外様々な周りの方々の強力なサポートにより実現することができました。

また、先輩方や後輩との交流を増やすために「縦割り班」を作成し、互いに刺激し合える環境づくりに取り組んでいます。自主性に富み、新たな発想が生まれる小橋ゼミで、私たちは今後も学びを深めて成長していきます。

小林 千春ゼミ 梅澤 志帆

小林ゼミは仲間と切磋琢磨しながら、全ての活動に全力で取り組んでおります。春学期に行われたビジネスアイデア大会では、お客様に感動を与える大丸京都店のレストランフロアとはどのようなものなのか、京都らしさやSDGsなど多方面から案を出し合い、昨年度に引き続き優勝と準優勝を受賞することができました。



また、秋学期に行われたディベート大会では7連覇を果たし、満足のいく成績を残すことができました。この他にも、Ossirisを用いて普段あまり目にする日本と他国の比較等を行う中で多くの学びを得ることができました。このように充実したゼミ活動を送れているのは、先生や先輩方の熱心なご指導はもちろん、小林ゼミならではの目標に向かって努力を惜しまず、何事にも全力で取り組む姿勢が代々引き継がれているからだと感じています。ゼミ活動で得た多くの経験と出会いに感謝し、今後も学びを深めていきたいと思えます。

小藤 弘樹ゼミ 藤田 歩乃花

こんにちは。私たち小藤ゼミは現在、小藤先生含め計16名で活動しています。2回生は、「ミクロ経済学の力」という教材を使ってミクロ経済学を復習し、その後はゼミ内での発表に向けて準備を行っています。3回生は、法政大学福島ゼミとの合同ゼミに向けて、「ふるさと納税」、「路上駐車」、「神戸市と明石市の人口変動」をテーマに準備を重ね、無事に発表を終えました。4回生は、これまでの知識や経験を活かし、「県域放送の見直し」に焦点を当てた卒業論文を執筆しています。ゼミ生は、これらの活動を経て、お互いに良い影響を与え合いながら成長することができました。

ゼミでは、小藤先生が「失敗してもいいからやってみよう!」、「問題意識を持ってみよう!」と大切なことを教えてくださいました。また、私たちが立ち止まった時にはそとと道を正してくださいました。そんな小藤先生に支え、見守られながら、これからも実りある活動を行っていききたいと思えます。

三俣 学ゼミ 井倉 大智

私たちは三俣ゼミは2020年度に始動し、今年初めて2,3,4回生揃ってゼミ活動を行うことができました。研究テーマは「エコロジー経済学」で、地域に着目置き、資源・環境問題にアプローチしています。三俣先生は「座学」はもちろんのことながら、「現場」での知見を大切にされており、学生とともに直接体験・見聞きし、その地域のあり方や自然について学ぶ機会を持たれます。

2回生は5人一組で研究を行い、年末に開催される「六大学合同ゼミ」で発表します。最初は右も左も分からない状態ですが、先生の確かなフィードバックとグループで協力することで「研究の楽しさ」を実感します。3回生は、テキストの輪読を通して社会調査の基礎を学び、その知見を基に、合同ゼミに向けてグループ研究を行います。そして、4回生はこれまでの学びを活かし、卒業論文に向けて一人で研究を行います。三俣ゼミでは、疑問に思ったことが研究を通して明らかになる「研究の楽しさ」を実感することが出来ます。今後もゼミ生一同、ゼミ活動に精進していく所存です。



宮崎 耕ゼミ 新井 健

本年度の宮崎ゼミは新たに26期生24名を加えた69名で活動しています。2年生は「あたりまえ」というテーマでシーズとニーズについて研究するとともに、ウェブ制作ハウスの取り纏めに取り組んでいます。3年生はウェブアプリの開発のほか、ビジネスアイデア大会、ディベート大会に出場しました。4年生はメタバースやSDGsをテーマとする卒業論文を執筆しています。

今年も新型コロナウイルス感染対策のため、海外視察や運動会は中止となりましたが、昨年引き続き枝見ウォークや東山ハイキング、紅葉狩り遠足、ハロウィン仮装などのゼミ行事を行いました。また3年振りにキャンパスで開催されたEVEでは、プリクラとワッフルのお店を開き、大盛況となりました。良心会（宮崎ゼミのOB・OG会）は秋に屋外で対面開催（写真・撮影時のみマスクを外しています）、春にはオンラインで開催されています。是非ご参加ください。先輩方にお目にかかれることを現役生も楽しみにしております。



宮澤 和俊ゼミ 秋房 優花

皆さんこんにちは。私たち宮澤ゼミでは2回生2人と4回生の1名で活動しており、主に公共経済学をテーマにした実証分析を行っています。現在は国内のデータを用いてエクセルで散布図の作成と回帰分析を進めており、仮説を立てる力や分析結果を読み取る力を培うことを目的とした演習を重ねています。

例えば、出生率低下の原因は何かという問いに対し、ゼミ生が各々仮説を立ててその原因となるデータを調査します。そして、経済力が原因だと仮定したうえで県民所得と出生率の間に負の相関があると分かっただけは、その理由を考察し、自身の言葉で解説します。最後に、教授や4回生と共に意見を交わしながら考察を深めていきます。

このように宮澤ゼミでは回帰分析を行うだけではなく、ゼミ生の思考力を養うことにも重きを置いており、日々その力を磨いております。これからも宮澤先生のご指導の下、ゼミ活動に邁進し、互いに切磋琢磨しながら成長し続けたいと思います。



長澤 勢理香ゼミ 安藤 颯真

こんにちは。私たち長澤ゼミは今年から始まった新設ゼミで、現在3年次生6人、2年次生21人で活動しています。2年次では、各自でテーマを決めて準備を進め発表します。3年次にはグループで研究テーマを決め、7大学合同ゼミで発表します。

長澤先生はゲストスピーカーの招待、他大学との合同活動などを積極的に企画して下さるため、多くの出会いの機会があり刺激的な毎日です。また、ゼミの仲間も非常に個性豊かで明るく、温かさに溢れた人間ばかりなので、全員が参加、会話、発表をし易い雰囲気があり、毎回ゼミに参加するたびに素晴らしいことだなと感じています。そんな素晴らしい仲間が揃ったためか、イベントや行事は他のゼミに比べて活発で、全員が参加するため盛り上がりやすいです。勿論、長澤先生も参加され誰よりも楽しんでおられます。この素晴らしい仲間と様々なことに挑戦していき、ゼミとしても個人としても成長していきたいと思っております。



新関 三希代ゼミ 沖永 昂基

私たちは、新関三希代教授のご指導のもと、Bloomberg ESG投資コンテスト、日経グループの3つの論文大会に出場いたしました。本年度は対面にて授業を実施し、新関三希代教授をはじめ、諸先輩方にも熱心なご指導をいただき、大変充実したゼミ活動を行うことができました。Bloomberg ESG投資コンテストでは、「Z世代が作成する『選ばれる』ESGファンド」というテーマのもと論文を執筆し、ファイナリスト選出、そして優勝という成績を取ることができました。日経グループでは、「貯蓄から資産形成」を促す政策提言を行い、奨励賞を受賞いたしました。日経ストックリーグでは法政大学とインターゼミナールを実施するなど、約4ヶ月に渡り論文を執筆いたしました。今後も、ゼミを支持して下さるOB・OGの皆様、そして新関三希代教授への感謝を忘れず、全力でゼミ活動に取り組んで参ります。



茂見 岳志ゼミ 山川 耕世

OBの皆様、こんにちは。今期のゼミ長の山川です。おそらく受講の形式自体は前年度の方たちと変わらず、メカニズムデザインとそれを軸にした専攻をしています。学術書を皆で読み解き、各章を班ごとに研究するというもので、茂見ゼミは他ゼミと比べても多くの人がいるゼミでありますので、その発表にも多数のゼミ生が関わることで出来る充実した学習が出来ました。

しかし、おそらく今までと違うのが、私たちが昨今のコロナウイルスでの煽りを最も受けた代であろうということだと思います。大学の授業なんて受けたこともないのにいきなりオンラインで困惑したこと、長い間同期と継続的に顔を合わせる事がなく人間関係の構築に苦戦したこと、その中でも2年の秋、多くの同じゼミ生という緩やかなコミュニティを作ることが出来た茂見ゼミに安心したこと、いずれもが記憶に強く残っています。

そろそろ就活が本格化しますので、各ゼミ生の強みと茂見ゼミで培ったことを活かして頑張っていきたいと思います。

西岡 幹雄ゼミ 町田 悠真

私たちは、西岡幹雄先生の下、「地域の潜在価値の発見とそのための新たな経済社会インフラの展開」コロナ後の地域・都市のあり方と世界の変容」をテーマに掲げ、グループ研究を行ってまいりました。ウィズ・コロナ社会においては、地域自体が本来持つ潜在価値を見出し、それを強みに変えていくことが求められています。

今年度は、奈良や淡路島、瀬戸内といった特定の地域を題材とした研究や、ふるさと納税に代表される税制の研究を行い、他大学との交流フォーラムにてその成果の報告を行いました。新型コロナウイルス拡大の影響で昨年に引き続きオンラインでの開催となりましたが、他大学の先生方や学生同士で活発に議論を交わし、知識を深めることで、刺激のある有意義なものとなりました。

今後も、これからの社会を担う者として更にクリエイティブな主体となるために、理論に対する知識をより深め、それを基に学生らしい「ワクワク感」のある地域の研究を進めてまいります。



落合 仁司ゼミ 免出 悠希

フランス現代思想のテキストから哲学や精神分析理論を学びました。プラトンをはじめとして、偉大な哲学者の著作をみれば分かる通り、芸術と哲学は非常に深い関係にあるのです。

落合ゼミでは、先生のご指導のもと、難解でありつつも知的好奇心を刺激されるテキストと、じっくり向き合うことができます。私自身、このように充実した環境下で、学問の探求という営為の一端に触れたことは、一生涯の財産になったと感じています。また、ゼミ生についても、多様な趣味を持つメンバーが集まっています。



こんにちは。落合ゼミ3回生の免出悠希と申します。私たちのゼミは、美の消費と芸術の生産をテーマに活動しています。ですので、美と芸術に関連するテキストの輪読を行っているのですが、そのジャンルは多岐にわたります。私の場合は、2年次にアール・C・ダントーの『アートとは何か』から美学の基礎を学び、3年次には

奥田 以在ゼミ 杉山 卓巳

OB・OGの皆様こんにちは。私たち奥田ゼミ9期生は「京都の職人や老舗に関する研究」をテーマとして3つのグループに分かれ、京都の「パン」「庶民菓子」「お香」について研究を続けています。実際に老舗へ足を運び、職人や商品に触れながら取材を重ねる中で、座学やオンラインでは体験できないリアルな学びに触れています。

研究だけでなくプロジェクト活動にも取り組み、2回生向けの「ゼミ説明会」チーム、同志社EVEへの出店を行う「EVE」チーム、ゼミ内3学年の交流を企画運営する「合同ゼミ」チームなど様々な活動に挑戦しています。今年度のEVEチームは「京都から発信する政策研究交流大会」に出場し、大学生63組の中で優秀賞を獲得しました。このように研究、プロジェクト活動どちらにも本気で取り組んでいます。

これからも私たちの演習活動が多くの方々のご厚意によって支えられていることを自覚し、日々全力で活動に取り組んで参ります。



小野塚 佳光ゼミ 櫻井 康一朝

小野塚ゼミでは、国際政治経済学（IPE）を演習のテーマに活動しています。本年度は、パリントン・ムーア『独裁と民主政治の社会的起源（上・下）』、斎藤孝『戦間期国際政治史』を用いて、各担当について発表を行いました。また、関連科目ではゲーム感覚でIPEを捉えるため、3回生でさまざまな資料を参考にしながら議論を重ね、自分達なりのワールドピースゲームを完成させました。2回生を交えてこのゲームを実施し、ゼミ内の交流を深めながら、IPEにおけるさまざまな問題について考えを深めることができました。

ウクライナ戦争や大幅な為替変動など、今年はIPEのテーマとなる出来事が多くありました。身近に起こる出来事から自由に議論を深めることができるのは、小野塚ゼミの強みの一つでもあります。今後も、古典や論文などのテキストからニュースといった多様な媒体からIPEを感じ、現代社会について研究を深めてまいります。



太下 義之ゼミ 西條 光貴

卒業生の皆様、こんにちは。私たちは現在も主に文化政策の研究を行っています。研究対象としては、創造都市、食文化、芸術の独立性、観光、デジタルアーカイブ、クリエイティブクラス等が挙げられます。これらに関する文献を読み解き、ゼミ生みんなでディスカッションを行うことで、多角的な視点を得ることはもちろん、自身の

考えをより一層深める機会となる授業を行なっています。2022年の現在でも、残念ながらフィールドワークなどは行うことは出来ませんでした。しかし、来賓の方を招いての講演、それを受けてのグループワークや、企業の社員の方をお招きして、大学生視点での新店舗を立ち上げるためにはどのように作るかという問題を頂き、実際にご指導を受けながらゼミ生と共に取り組むことが出来ました。今年もコロナウイルスの影響でゼミ活動にも制限がありました。各学年がそれぞれの活動に打ち込んだことで、実りある一年になりました。



迫田 さやかゼミ 岩佐 一秀

はじめまして。今年誕生した迫田ゼミ1期生の岩佐一秀と申します。3回生15人、2回生30人で活動を進めています。迫田ゼミには2つの特徴があります。1つ目は、明確な目的のもと活動していることです。2年次では、統計のテキストを用いて発表することを通じて、理解を深め、統計の実用的な力を身につけています。3回生は、全国の大学生による論文大会「ISFJ日本政策学生会議」に向けて、論文とプレゼンの作成に取り組み、書く力、分析力、プレゼン力を高めています。他大学とのインゼミや同じ同志社大学経済学部での合同ゼミを行っています。身につけた力を4年次で卒論研究で存分に活かす予定です。今年、明治学院・慶應とのインゼミで優秀賞を取ったものの、「ISFJ日本政策学生会議」では受賞を逃したので来年のリベンジを誓うところです。この様にして、自大学・他大学のゼミ生との交流の中で切磋琢磨しています。

もう1つは、OB・OGによる勉強会によって、将来について考える機会が多く設けられていることです。活躍されている先輩方のお話を聞き、大変刺激を受けました。学生に丁寧に向き合ってください。先生方、大学を支えそしてお話してください。卒業生の皆さまに感謝し、これからもゼミ活動に励む所存です。



鹿野 嘉昭ゼミ 池田 泰久

こんにちは。私たち鹿野ゼミ3回生は11人で「日本経済と金融」をテーマに活動しています。2年次には、経済学を復習した後ビエトラ・リポリ著『あなたのTシャツはどこから来たの?』を輪読し、経済学のほか国際分業や貿易のあり方についての理解を深めました。3年次には、春にF. Mishkin著『貨幣、銀行、金融市場の経済学』を用いて金融に関する基本的な概念や考え方を学び、秋には岩村充著『中央銀行が終わる日』を輪読し、貨幣のあり方について議論しました。

鹿野ゼミでは、教科書や文献だけに留まらず最新の日本経済を金融の視点から学んでいます。経済に関連する様々な時事問題について議論し、鹿野教授からフィードバックを頂くことにより、各々が主体的に日本経済と金融について理解を深められるところがわがゼミ最大の魅力だと思います。これからも鹿野教授や支えてくださるOB・OGの皆様への感謝の気持ちを忘れず、ゼミ活動に全力で取り組んで参ります。



菅 一城ゼミ 小林 花曜子

菅ゼミは今年度、各七名の三・四回生、十四名の二回生、そして菅一城先生の計二十九名で活動しています。今年度から二〇二〇年度生全員が運営に携わってSNSアカウントを開設し、ゼミ全体の様子や個人の研究テーマを紹介することができるようになりました。それをきっかけにゼミの魅力が一層伝わり、多くの二回生を迎えての活動になっています。

演習では、各々が関心を持つ国内外の事象について、興味関心をきっかけとして自由にテーマを設定して研究を進めています。二〇二〇年度生はおよそ月に一回のペースで自身の研究の中間発表をしており、学生同士で疑問点の解消や意見交換をしたり、先生からフィードバックを頂いたりしています。最初は慣れない授業形態ということもあり拙い質問も多かったのですが、回を重ねるごとに的を射た発言が出来るようになりました。また、自分とは違う視点からの質問や意見があることにより、より質の高い研究ができています。

今後とも自らのやるべきことと向き合い、日々精進してまいります。



高井 才明ゼミ

こんにちは。私たち高井ゼミは現在、木曜日に良心館の401教室で活動しています。4年生24名、3年生24人に加え、今年度は新たに28人の2年生が入ゼミしました。「情報システムを経済やビジネスの視点から企画・開発・設計・運用できる人材に」をスローガンにゼミ活動を行っており、2年生では、ウェブデザインやウェブプログラミングを行っています。3年生

では簡単なブラウザゲームやアプリケーションの開発、データベースサーバやウェブサーバと連携したシステムについて学習します。4年生では主に卒業論文を執筆しています。卒業論文では情報システムを軸にメタバースや企業、食品といった様々なテーマで執筆しています。また、ゼミでの活動を通して基本情報技術者試験の合格も目指しています。2・3年生ともにグループに分かれてプレゼンテーションや開発を行うため、学年やグループごとにそれぞれ特色のある発表を行いました。

今年も新型コロナウイルス感染症対策のため、海外視察やゼミコンパは行うことができませんでしたが、今年度は全学年合同での最終発表を対面で行うことができました。また、対面のゼミ活動だけでなく、オンラインでの基本情報技術者試験対策勉強会など今までは違った活動も行なっています。今後ともコロナでの制限が続くかと思われませんがゼミ生一同、活動に精進していきます。



竹廣 良司ゼミ 倉重 竜

2年次の前半はゼミ対抗のディベート大会に出場しました。相手は全員上級生という厳しい状況の中、4チーム中2チームが予選を突破し本選に進むという善戦ができました。多様な資料に目を向けるため、役割分担と進捗管理、情報共有を徹底しましたが、限られた時間で目標水準に近づけるため、チームの垣根を超えゼミとして協力

力し、ゼミが丸となることができました。また、ディベートを通じて、話す力、論理的思考力に自信が付き、チーム力も高まりました。

2年次の後半から3年次前半にかけてはSASによる分析を学びながら経営経済に関する書籍を輪読しました。3年次後半はチームで論文を作成し他ゼミとの合同研究報告会で報告しました。

ゼミ活動においては、どんな局面でも常に先輩のサポートがあり、大変感謝しております。竹廣ゼミは横の繋がりがだけでなく縦の繋がりも充実している、学びの場として最適なゼミだと考えています。ゼミの伝統を継承し、私たちも後輩をサポートしていく所存です。



田中 靖人ゼミ 上原 康平

こんにちは。私たち田中ゼミは、田中靖人先生ご指導の下、学生自らが考え行動する学生主体のゼミ活動をしております。授業内容や進行方向、年間スケジュール等全てをゼミ生同士が話し合っ決定し授業を展開しています。また、授業以外の課外活動にも積極的に参加し、2022年度には「WE ST論文研究発表会」の運営・執筆

筆を当ゼミが主体となって行いました。関西だけに限らず、関東や九州などから多くの大学・研究室にご参加いただき、無事全日程を終えました。論文大会という非常に難しいプロジェクトに全力で取り組むことで、普通の大学生では経験することができないような体験をすることができました。今後もフリーペーパーの作成、商品開発などさまざまなことに取り組む予定です。現在、下級生の募集は行なっておらず、2023年度には私たち学年のみ

での活動となっております。ですが、授業内外で様々な活動・研究にゼミ生同士で高めあいながら取り組んで参ります。



谷村 智輝ゼミ 風間 晃太

皆さんこんにちは。谷村ゼミ2022年度ゼミ長の風間晃太と申します。私たち谷村ゼミは男子13名、女子7名、谷村教授の計21名で活動しています。授業では2つの書籍を用いてグループごとに発表することで、本ゼミの研究テーマである資本主義についての基礎的な理解と、日本経済の問題点についての理解を深めました。

そのなかで、ゼミ生同士が協力して試行錯誤を重ね発表を実践し、発表内容についてお互いが意見していくことで、資本主義への知見を得ることはもちろん、研究の技法として「批判的な考え方」を身に付けることができ、日々成長を実感しています。

また、学外の活動についても充実したゼミ生活を送れています。一学期に一回実施される「ゼミ生の日」では、ボウリングや、体育館を借りてスポーツ大会を実施するなど、コロナ禍という制約が多い中でも、ゼミ生全員が楽しめるようなイベントを行いました。

これからも、ゼミ活動を通じて得た学びを活かしながら、ゼミ生一同全力で取り組んで参ります。



角井 正幸ゼミ 田中 佑太

私たち角井ゼミは、「アメリカにおける経済問題の実証分析」を演習のテーマとして活動しています。2年次にはExcelを用いてデータ分析をおこない、アメリカの経済について考えました。3年次には、ピケティ氏の『21世紀の資本』からアメリカ経済がどのようにして発展してきたかについて学び、また伊東光晴氏の『ガ

ルブレイス』を通じて、ガルブレイス氏の述べたアメリカの資本主義の本質について学びました。そして、現在はアメリカ経済に関わるそれぞれの研究テーマに基づいて卒業研究を進めています。

また授業では、上記のテーマについてプレゼンをおこない、先生からそれぞれに足りないプレゼンのスキルを指導していただき、さらなる向上を目指して日々励んでいます。新型コロナウイルスの影響により残念ながら先生とは授業以外での交流を持つことができていませんが、3年生の5人で授業以外の時間でも仲良く、楽しく、時には助け合いながら活動することができています。





和田 美憲ゼミ 大月 暁信

私たちが和田美憲ゼミ2回生は、現在25人で活動しており、行動経済学に関する研究のための基礎となる学びを重ねている最中です。秋学期では行動経済学とはどのような学問であるかを学び、みんなで経験談をシェアしながらさまざまな理論について触れました。さらに研究結果を分析するために必要な心理学統計を学びました。行動経済学は日常生活に溢れている身近なものであると日々、和田先生は授業を通して伝えてくださります。お笑い、音楽、恋愛に絡めて説明して下さったり、プレゼンテーションでもそのように聞き手も楽しいプレゼンを推奨して下さったりするので、行動経済学を楽しく学ぶことができている。また、行動経済学についての新しい発見のきっかけを作ってください。例えば、みんなの知っている恋愛ソングの歌詞や経験談の中から人間の非合理的な考えや行動を見つけ、なぜそのような行動をとってしまうのか、行動経済学の理論や用語を使って考え学びを深めていくというような授業を行っています。また個性豊かで多様なバックグラウンドを持つ生徒が多く集まっているゼミということもあり、さまざまな考えや価値観を共有し、視野を広げる機会を多く作っています。

最終的には自身発案の説を見つけて立証することを目標に行動経済学を熱心に探求し、またゼミ活動以外でもイベントを計画し楽しくより充実した学生生活を送れるよう活動していきます。



横井 和彦ゼミ 池 真太郎

私たちのゼミの研究テーマは「中国経済」です。横井ゼミは、他のゼミに比べ大人数である為、多種多様な意見を持った学生がいま。議論の際はグループワークが多く、意見をまとめ、どうすれば簡潔に伝えることができるかなど考える力が身に付きます。3年次の後半ではグループを作り、対中ビジネスバーチャルカンパニーを設立し、企業の設立、運営を疑似的に体験することが出来ます。

また、私たちはコロナ禍でかたがた、例年は中国研修で実際に中国を訪れることもあるのですが、他にも、他のゼミとの交流や名城大学との交流も行います。

横井先生は、学生との距離感が近く、学生一人一人を非常に大切に、相談などを親身になって考えてくださるので、非常に良い雰囲気です。この暖かな雰囲気から、これからも受け継がれ、私たちができなかった様々な経験ができるようになることを心から願っています。



四谷 晃一ゼミ 那須 遼

私たちが四谷ゼミは、「人的資本」教育の経済分析をテーマに活動を行っています。2年ゼミでは、導入的なテキストを用いて輪読を行い、教育の経済学に関する基本的な考え方について学習しました。3年ゼミでは、より専門的な文献の輪読に移り、教育と社会経済問題との関わりについて掘り下げて学習しました。また、輪読に加え、同志社経済学部主催のビジネスアイデア大会、デイベート大会に出場しました。ビジネスアイデア大会では、1チームが予選を突破し、本戦でプレゼンを行うことが出来ました。初めての経験でどちらも手探りのスタートとなり、苦戦する場面も多くなりましたが、グループごとに協力し議論を積み重ねた時間は、私たちにとても大変意義のあるものとなりました。1年間を通して、コロナ禍により思うように活動できない時期もありましたが、達成感、充実感を十分に感じるゼミ活動を行うことが出来ました。今後も四谷先生のもと、学生が主体となり意義のある活動が出来るように励んでいきます。



退任の先生からのご挨拶

Greeting



カリキュラムと卒業生

伊多波 良雄



この3月で教員生活を閉じることになった。在職中は卒業生および同経会に大変お世話になった。このことに改めて感謝申し上げたい。ここでは、経済学部の現行のカリキュラムと卒業生の関わりについて紹介したいと思います。

少子化が止まらない現在、大学間で受験生の争奪戦が相当厳しくなると思われる。受験生を引きつけるためには、様々な手法が考えられるが、中でも重要なのがカリキュラムの中身であろうと思われる。

これまでの経済学部のカリキュラムは大きく分けると3つになる。第1は、リベラルアーツ型である。1、2回生に語学と一般教養、3回生以降には専門科目が配当されるというものである。第2は、くさび型と言われるもので、リベラルアーツ型の1、2回生に配当されている語学と一般教養科目群にくさびが打ち込まれるように専門科目が配当されている。そして、第3が、現在のカリキュラムで基礎充実型と言っているものである。このカリキュラムでは、3回生以降、理論、歴史あるいは政策のどの分野に進んでも必要とされる

基礎的な科目、例えば日本経済、経済史あるいは数学などが、1、2回生に配当されている。3、4回生にはそれぞれの学生は興味にしたがって履修できるよう様々な科目が配当されている。

ここでは、第3の型、つまり基礎充実型カリキュラムができた舞台裏を簡単に紹介しようと思う。時はバブル崩壊直後まで遡る。1991年に文部省現在（文部科学省）による大学の設置基準が大幅に改正され（大学設置基準の大綱化）、各大学はカリキュラムを自由に設定できるようになった。当時、国際化や環境がキーワードになっていたため、大学改革の一環として国際学部や環境学部など新しい学部が新設されており、我が経済学部でもカリキュラムを中心に学部改革が行われた。このため、企業がどのような人材を求めているのかについてマーケットリサーチする必要があるということ、カリキュラム委員会のメンバーを中心に企業訪問することになった。経済学部の卒業生が多く就職している企業が選定され、メンバーは二人一組になり、数社を訪問した。どの企業も快く対応してくれ、卒業生には大変お世話になった。

マーケットリサーチの結果は、同志社大学経済学部の卒業生には、環境経済など専門知識を持つよりは経済学の基本的な考えや基礎学力を身につけてきてほしいということであった。この結果を受けて、学部としては特定の学科を設けないという方針が確認されて、できたのが基礎充実型のカリキュラムである。

近年、谷村学部長の下で、カリキュラムの見直しが行われ、基本的には基礎充実型のカリキュラムが踏襲されている。しかし、IT技術の進歩によりリモート講義など新たな講義形態が可能になっており、新型コ

退職のご挨拶

上田 曜子



同志社大学経済学部に着任してから19年が経ちました。私にとって同志社大学は「豪華大型客船」のような職場でした。行き先もわからず、迷子になりながらも長い間乗船させていただきました。教職員の方々をはじめ、学生の皆さんにも助けていただきながら、定年を迎えることができました。周囲で支えてくださった皆様には、感謝の言葉しかありません。心よりお礼申し上げます。

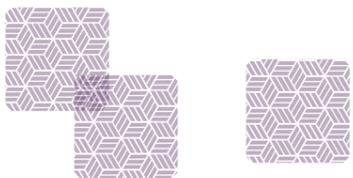
この19年間は、反省を繰り返しながら目の前の仕事をこなす日々でした。研究業績もさることながら、心残りは学生さんに学ぶことの楽しさや意義を十分に伝えられなかったことです。卒業式を迎えるたびに、ゼミの学生さんたちに対して「もつと何かできたはず」という自責の念に駆られることがたびたびでした。

最後の3年間は、コロナ禍によりオンライン授業を経験しました。オンライン授業の利便性が高いことは認めますが、授業の最大の目的である「専門知識を伝達すること」は非常に難しく、自分の能力の限界を痛感した3年間でもありました。

このように反省ばかりの19年間ではありましたが、ゼミの学生さんたちとの楽しい経験は、貴重な思い出です。研修旅行でタイやカンボジアを訪問し、現地のJETROや日本企業、NGOでお話を聞いたり工場見学をさせてもらったこと、他大学のゼミとのディベート大会、論文発表会のために論文作成を指導したことなどが記憶に残っています。また、タイの現地企業にインターンシップをお願いしてゼミの学生さんを受け入れてもらったこともありました。

ただし、このような企画はオプショナル・ツアーのようなもので、高等教育でなければ学ぶことができない専門知識や考える力を養うことにもつと力を入れるべきではなかったかと振り返っています。近年は就職活動開始の時期が早まる傾向にあり、3年生の夏休み前後から、インターンシップを含めた就職活動を理由に授業を欠席する学生が増加します。学生さんにとっては、授業での学びより、就職活動の優先順位が高いということでしょう。しかしながら教員からすると、日本では高等教育があまりにも軽視されていると感じます。日本経済の低迷が長く続いている理由として、労働生産性が低いという点が指摘されますが、その背景には、大学教育軽視の風潮があると思えてなりません。同志社大学経済学部が、無限大の可能性を秘めた若者が能力を開花できる、そんな学びの場となつてほしいと心より願っています。

コロナウイルスがこれの促進を加速している。さらには社会経済環境の激しい変化を背景に学問のさらなる進展が見られることが予想される。こういった動きに対応するため第4のカリキュラムの型の構築が必要とされる時が来るであろう。その際に経済学部一丸となって立ち向かって行くことになるが、これまで以上に卒業生の力が大きな支えとなるであろう。



2022年度 定時総会 議案

- 第1号議案 2021年度事業報告並びに決算報告
- 第2号議案 2022年度事業計画並びに予算案
- 第3号議案 役員改選について
- 第4号議案 同経会会則、個人情報取扱規程の改訂について
- 第5号議案 その他

2022年度 定時総会報告

Report



新任の先生からのご挨拶

Greeting

第1号議案、第2号議案

2021年度 事業報告

<会議関係>

- 理事会 2021年5月19日(リモート開催)
- 総会 2021年10月2日(書面とリモート開催併用)
講演会、懇親会は未開催
- 委員長会議 (計5回)
2021年10月25日、2022年 1月14日、
2月18日、3月18日、4月15日
- 学部同窓会連絡会 (計3回)
2021年12月13日、2022年1月12日、3月2日*
*大学校友課との名簿一元化に向けての打合せ協議

<経済学部への寄付>

経済学部の充実・発展のため40万円寄付
(学術助成金として予算計上)

<総務・支援委員会>

- 「同経会報87号」2021年4月発行
「同経会報88号」2022年4月発行
- 同経会賞 2022年3月21日授与式開催
- 卒業記念品 2022年3月21日卒業式にて配布
- 海外インターンシップ 中止
学部の「オンライン海外ビジネス体験」を支援

<会員増強委員会>

各地区のつどい、しめた会 中止

<財務委員会>

定期預金、公社債の解約、償還及び購入はなし

第1号議案、第2号議案

2021年度 事業報告(各委員会活動)

<総務・支援委員会>

- ◆ 規程類の見直し
個人情報取扱規程、出張旅費規程、慶弔規程
- ◆ 総会、卒業生のつどい開催準備
2022年7月9日(土)総会、講演会、懇親会
- ◆ ホームページ改修とSNSの活用
HP改修着手、Facebook開設
- ◆ 大学校友課と卒業生情報一元化に向けて協議

<財務委員会>

- ◆ 代理徴収 今年度より15千円に増加(+3千円)
- ◆ 広告収入 昨年同様200千円
- ◆ 活動減少により収支は次年度繰越が増加
- ◆ 終身会費積立金74百万円の定期預金、債券等での運用は変動なし

<企画委員会>

- ◆ 留学生向けインターンシップ準備
ダイキン工業、京進、村田製作所 (計5名)
2022年8月下旬~9月中旬
- ◆ 学生プロジェクト準備
ロマンライフ(マルブランシュ)、松栄堂、
フクナガ(リプトン)、福寿園
- ◆ 同経会賞の新規顕彰対象の拡大の検討開始

<会員増強委員会>

- ◆ 各地区のつどいプロジェクト委員長との面談、
情報収集、状況確認、会員増加に向けた取り
組みの検討
- ◆ 会員の状況分析と会員増強策の検討
(目標 3年計画 5,000人)

4月より経済学部に着任いたしました。2001年度生として経済学部に入學して以来、大学院前期課程、後期課程、助教と、同志社大学でお世話になりました。その後、茨城県の大学で教鞭をとってまいりました。このたび母校である同志社大学経済学部で再び教育・研究に携わることができ、幸せを感じるとともに身の引き締まる思いです。

私は近世近代のイギリス奴隷貿易史や植民地貿易史を通して、大英帝国が築かれた過程を研究しています。数百年前に書かれた古文書や書簡を見ると、当時の感染症や戦争に関する記述が頻繁に出てきます。今日でも、感染症、戦争、少子化、貧困など、しばらく暗いニュースが続いています。先の見えない時代をどう生きるのか、経済学や歴史学を使って学生や先生方と一緒に考えていきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。



ご挨拶

長澤 勢理香

第1号議案、第2号議案

2021年決算 監査報告

監査報告書

同志社大学経済学部同経会

代表 田中 啓介 様

監査 岡田 啓介 様

監査期間 2021年4月1日～2021年3月31日

監査結果 監査無異議

監査人 岡田 啓介

2021年3月31日

第1号議案、第2号議案

同志社大学経済学部 同経会

2022年度計画

第1号議案、第2号議案

「より良い同経会

魅力ある同経会

を目指すために」

第1号議案、第2号議案

2021年決算及び2022年予算

項目	(単位:円)			主な差異要因	(単位:円)		主な差異要因
	2021年度 予算(A)	2021年度 決算(B)	差額(B)-(A)		2022年度 予算案(C)	対2021年度 予算比(C)-(A)	
前年度繰越金	6,367,931	6,367,931	0		12,005,425	5,637,494	
収入	12,000,000	12,000,000	0	0(15千円×800人)	11,250,000	-750,000	0(15千円×750人見込)
支出	12,413,461	12,374,996	-38,465		11,663,396	-750,065	
合計	18,781,392	18,742,927	-38,465		23,668,821	4,887,429	
当年度収支差額(1)-(2)	2,113,461	5,637,494	3,524,033		-2,231,604	-4,345,065	
次年度繰越金	8,481,392	12,005,425	3,524,033		9,773,821	1,292,429	
合計	18,781,392	18,742,927	-38,465		23,668,821	4,887,429	

第1号議案、第2号議案

2021年決算及び2022年予算

終身会費				国際交流支援基金			
項目	(単位:円)			主な差異要因	(単位:円)		主な差異要因
	2021年度 予算(A)	2021年度 決算(B)	差額(B)-(A)		2022年度 予算案(C)	対2021年度 予算比(C)-(A)	
前年度繰越金	73,997,162	73,997,162	0		74,027,162	30,000	
収入	15,000	30,000	15,000		15,000	0	
支出	213,284	213,284	0		213,284	0	
合計	74,225,623	74,240,558	14,935		74,255,558	29,935	
当年度収支差額(1)-(2)	15,000	30,000	15,000		15,000	0	
次年度繰越金	74,012,162	74,027,162	15,000		74,042,162	30,000	
合計	74,225,623	74,240,558	14,935		74,255,558	29,935	

第1号議案、第2号議案

2021年決算及び2022年予算

貸借対照表

2022年 3月31日現在

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金預金	29,101,425	終身会費積立金	74,027,162
有価証券	51,149,918	退職給付積立金	2,500,000
預け金	10,179,907	国際交流支援基金	1,898,663
		次期繰越金	12,005,425
合計	90,431,250	合計	90,431,250

《内訳》

- ◆ 現金預金
 - みずほ銀行 出町支店 (経常勘定口) 普通預金 7,311,845
 - " " (終身勘定口) 普通預金 12,266,763
 - " " (終身勘定口) 定期預金 1,000,000
 - ゆうちょ銀行 京都室町上立売郵便局 振替口座 (会費入金) 3,990,117
 - ゆうちょ銀行 京都室町上立売郵便局 振替口座 (その他入金) 4,163,302
 - 小口現金 事務局金庫 369,398
 - 合計 29,101,425
- ◆ 有価証券
 - SMBC日興証券 広島市公債 (終身勘定口) 10,000,000
 - 北海道公債 (終身勘定口) 10,000,000
 - 利付国債(10年) 第336回 (終身勘定口) 10,149,918
 - 合計 30,149,918
- 野村證券 広島県公債 (終身勘定口) 21,000,000
- 合計 21,000,000

有価証券合計 51,149,918

- ◆ 預け金 入会金(大学経理課) 10,179,907

総務・支援委員会 2022年事業計画

テーマ

- ・会員の活発な交流のための適時の情報及び機会の提供
- ・ホームページとSNSを活用した情報発信の強化
- ・未整備の規程類の策定

(1) 同経会活動の活性化に向けた取組

- ① 同経会賞の拡充
 - ・成績優秀者5名、その他の項目で成果のあった学生・記念品の見直し
- ② 同経会総会および卒業生のつどいの開催
- ③ 大学学部との連携による新規事業の実施(企画委員会との協働)

(2) 同経会の情報発信機能の強化

- ① ホームページの改修による情報発信の頻度向上と機能充実
- ② Facebookを活用した情報発信とホームページとの連携強化
- ③ 同経会報の年1回発行へ変更とWeb化への切替の検討
- ④ 大学校友課管理名簿を活用した情報発信の実施

(3) 会則等の整備

- ① 組織検討に応じた会則や委員会規程等の見直し
- ② その他規程類の整備

財務委員会 2022年事業計画

テーマ

財務基盤の強化と収入の増強

- ① 広報、HPチームと連携した広告収入増加への取り組み
 - HP広告の獲得活動
 - 会報への広告掲載の検討
- ② 各地区のつどいや各活動への適切な予算配分（増額を視野に）
 - 各活動内容や活動予定に沿った予算の検討
- ③ 企画チーム、新事業のための予算確保
- ④ 寄付活動の目的と対象を検討
- ⑤ 終身会費積立金 74百万円の位置づけと使途も含めた有効的な使い道の検討（運用面は現在の安全資産での保有を継続）

企画委員会 2022年事業計画

テーマ

- ・アカデミアとビジネス等の架け橋となる新しい企画を実施
- ・組織の強化

1) 「アカデミアとビジネス等の架け橋となる新しい企画の実行と検討」 =学部との紐帯強化

- ① 留学生向け国内インターンシップの実施と今後の展望について学部と打合せ（学部としてはこれを次期ALL同志社教育推進プログラムに成長させたい）
- ② 学生プロジェクトの実行と来期以降「同経会の単独プログラム」に成長させるかの検討
- ③ その他新規プログラムの検討、アイデア出しと実施への準備
とりわけ学部との紐帯強化となるようなプログラムの検討

2) 同経会賞の新規顕彰拡大についての具体的推進(総務・支援委員会との協働)

3) 同経会の組織の活性化・強化のための組織のあり方の検討

現在の同経会の状況について

1. 同経会の会員の実態

	20才台	30才台	40才台	50才台	60才台	70才台	80才台	合計
会員数(人)	70	109	253	423	512	351	458	2,176
年齢構成(%)	3.2	5.0	11.6	19.4	23.5	16.1	21.0	100.0
入会率(%)	1.0	1.4	3.2	5.3	6.4	4.4	5.7	3.0

- ① 60才以上の会員構成比は60%を占める
- ② 会員数は過去10年間増加していない
- ③ 若手(20~40才台)の加入が極端に少ない

2. 他の学部との比較

	会員数(人)	広告収入(万円)	執行理事(人)	非執行理事(人)
同経会	2,200	20	74	37
政 法 会	20,000	34	79	9
樹 徳 会	7,000	340	72	0
理 工 会	25,000	-	30	1

以下のような“ありたい姿”を目指したい

1. 経済学部(含む学部生)との関係を強化し、貢献を加速することにより、更なる信頼関係が構築できる
2. 卒業生の気付きを高めてもらえる様々な企画や情報発信を行うことにより、卒業生とのアクセス、コミュニケーションが向上している
3. 親睦の意義は十分に理解しつつ、全ての卒業生にとってメリットを感じてもらえる活動により、同経会の価値が向上している



結果として同経会の会員数は増加に転じている

そのために私達 執行メンバーが実行すること

- ① 成り行きではなく、必要な活動が出来る財源を確保する
- ② 卒業生の情報収集、データ解析、発信の仕方を見直す
- ③ 卒業生に参加したいと思っただけの連続的な多くの企画を提示する
- ④ 若手リーダーを中心とした新しいWaveを興せる組織の基盤を作る

第3号議案

顧問改選について(報告事項)

2022年5月19日開催の第1回理事会において、以下の事項が承認可決されました。

- ・現在の顧問の方々の継続した顧問への就任
- ・本総会最終時をもって辞任の申し出のあった小嶋名誉会長、服部名誉会長、渡邊副会長、高木副会長、岡田副会長、昌尾副会長、河合副会長の顧問への就任
- ・第4号議案の会則の改訂により、上記の方々の「名誉顧問」への就任

<現在の顧問、辞任予定の名誉会長、副会長>

名誉会長	小嶋淳司	服部盛隆	
顧問	千玄室 秋山哲 福井正憲 細見吉郎 吉田忠嗣	辻本光彦 井上礼之 播島幹長 西口廣宗 北尾哲郎	川勝泰司 中野淑夫 森本弘道 岩崎隆 村田恒夫
副会長	渡邊隆夫 昌尾一弘	高木壽一 河合一郎	岡田博邦

第4号議案

同経会会則、個人情報取扱い規程の改訂について(その1)

<会則の改訂について>

- ・2021年度より会計責任者を設置していないため、会計責任者に関する記載を削除
- ・役員として「名誉顧問」の役職を追加

<会費規程の改訂について>

2021年度の卒業生(2022年3月卒業)より入会金が15,000円となり、新入会員はWeb終身会員のみとなったことに伴い、従来の入会金に関する記載を削除(以下参照)

改定後	改定前
<p>第1条 本会会費は次のとおりとする。</p> <p>1. 入会金(Web終身会費含む)15,000円</p> <p>2. 終身会費 5,000円(Web限定会員) 郵送希望の場合は、5年ごとに購読料5,000円が別途必要</p>	<p>第1条 本会会費は次のとおりとする。</p> <p>1. 入会金12,000円 2021年度より、入会金(Web終身会費含む)15,000円</p> <p>2. 終身会費 5,000円(Web限定会員) 郵送希望の場合は、5年ごとに購読料5,000円が別途必要</p>

下線が変更箇所

第4号議案

同経会会則、個人情報取扱い規程の改訂について(その2)

<個人情報取扱い規程の改訂について>

- ・個人情報の取扱について、継続的に見直し、改善を図る旨を追記
- ・同経会の保有する会員名簿データの同志社大学の保有する卒業生名簿データへの統一化を図り、共同利用が開始されることに伴い、同志社大学との間での個人情報の共同利用を行う旨、及び共同利用される個人情報の項目を追記

「基本方針」に以下を追記

- 5 個人情報の取組みは、継続的に見直しを行い、改善を図る。
- 6 同志社大学との間で個人情報の共同利用を行う。

共同利用される個人情報の項目

卒業生本人の氏名、連絡先(郵便番号、住所、学生ID、電話番号、E-mailアドレス)、生年月日、卒業学部(研究科)、卒業(修了)年月

第1号議案、第2号議案

会員増強委員会 2022年事業計画

テーマ

- ・魅力ある行事の開催による会員の活発な交流
- ・ネットワークの拡大による会員の増強

<組織の増強と情報共有体制>

- 委員長に土橋氏、副委員長に菅原氏が就任し統括機能を強化
- 委員長、副委員長の委員長会議への参加

<つどい見直し>

- 若年層の集客
- 気楽に集合、会費安く、飲食の簡素化
- 「ビジネス交流会」大阪10月開催(3学部合同)(講演会なし、名刺交換中心)

<増強施策>

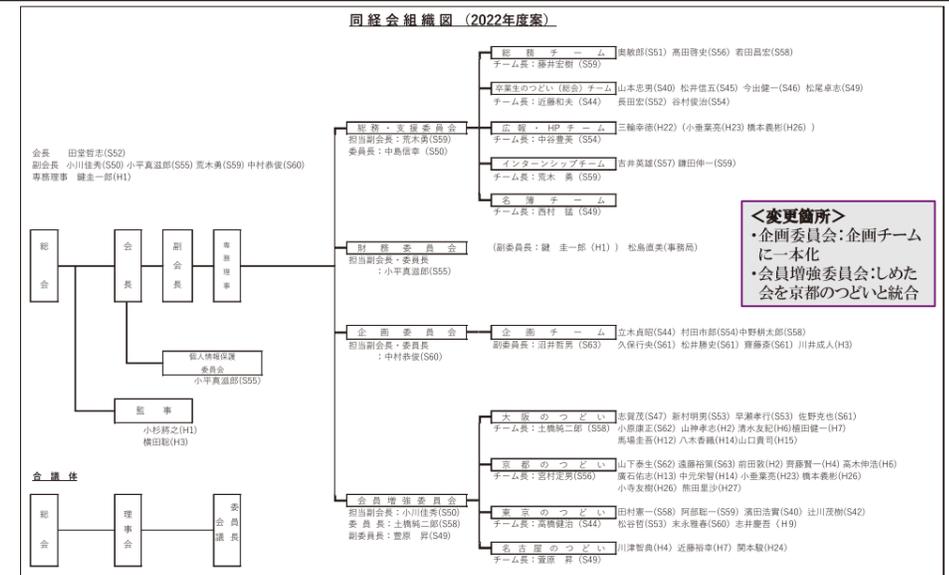
- ① マス開い込み~対象絞り込み実施
 - ・経済界：ロータリークラブ、J C
 - ・SNS
 - ・地区、ブロック：銀行、校友会、県人会等
- ② 大学、学部連携
 - ・学生・社会人セミナー実施
次世代塾(事業承継)講師：卒業生
 - ・ITセミナー開催
講師：CCC増田社長、宮坂東京副都知事等

<2023年度に向けての施策準備>

- 県人会とのコラボ
- (各県同経会大使の設置、父母会連携等)

【会員目標】

5,000名に向けての目処を立てる



第3号議案

理事会の議を経た会長委嘱の役職者 (*印は新任、他は再任、卒業年次順)

顧問 千 玄室 (S21) 辻本 光彦 (S25) 川勝 泰司 (S28) 秋山 哲 (S32)
 井上 礼之 (S32) 中野 淑夫 (S32) 福井 正憲 (S33) 播島 幹長 (S33)
 森本 弘道 (S34) 細見 吉郎 (S34) 西口 廣宗 (S34) 岩崎 隆 (S35)
 吉田 忠嗣 (S35) *小嶋 淳司 (S37) *渡邊 隆夫 (S37) *高木 壽一 (S39)
 *服部 盛隆 (S41) 北尾 哲郎 (S46) *岡田 博邦 (S46) *昌尾 一弘 (S46)
 村田 恒夫 (S49) *河合 一郎 (S55) 八田 英二 (特別) *宮本 大 (特別)

理事の中から会長が指名する役職者

副会長 小川 佳秀 (S50)
 小平 真滋郎 (S55)
 荒木 勇 (S59)
 中村 恭俊 (S60)

専務理事 鍵 圭一郎 (H1)

総会に選出を求める同経会役員候補

2022年度役員選考委員会
 (*印は新任、他は再任、卒業年次・50音順)

会 長	田堂 哲志 (S52)			
理 事	S38	橋本 久幸		
	S40	濱田 浩實	山本 清	山本 忠男
	S41	田島 繁		
	S42	辻川 茂樹		
	S44	近藤 和夫	高橋 健治	高橋 修 立木 貞昭
	S45	松井 信五		
	S46	饗場 一慶	池田 博義	今出 健一
	S47	志賀 茂		
	S49	萱原 昇	西村 猛	松尾 卓志 山本 源兵衛
	S50	小川 佳秀	中島 信幸	
	S51	奥 敏郎		
	S52	長田 宏	神山 研一	
	S53	石塚 清司	新村 明男	早瀬 孝行 *伊豆蔵 健之
	S54	*岩村 稔	谷村 俊治	中谷 豊美 村田 市郎
	S55	小平真滋郎	山添 俊之	
	S56	高田 啓史	牧野 正裕	宮村 定男
	S57	吉井 英雄		
	S58	*田村 憲一	土橋純二郎	中野耕太郎 若田 昌宏
	S59	阿部 聡一	荒木 勇	鎌田 伸一 藤井 宏樹
	S60	末永 雅春	中村 恭俊	
	S61	久保 行央	齋藤 斎	佐野 克也 松井 勝史
	S62	小原 康正	山下 泰生	
	S63	遠藤 裕策	沼井 哲男	
	H1	*今田 素子	鍵 圭一郎	
	H2	前田 敦	山神 孝志	
	H3	川井 成人		
	H4	川津 智典	齊藤 賢一	
	H6	清水 友紀	高木 伸浩	
	H7	伊藤 弥生	植田 健一	近藤 裕幸
	H9	志井 慶吾		
	H12	馬場 圭吾		
	H13	廣石 佑志		
	H14	中元 栄智	八木 香織	
	H15	山口 貴司		
	H16	大谷 淳子		
	H22	三輪 幸徳		
	H23	小垂葉 亮		
	H24	関本 駿		
	H26	橋本 義彬	小寺 友樹	
	H27	熊田 里沙		
特別		伊多波良雄 鹿野 嘉昭 北川 雅章 竹廣 良司		
		新関 三希代 谷村 智輝 横井 和彦		
監 事	小杉 將之 (H1)		横田 聡 (H3)	

理事 合計 88人

世の中に「ちょっとだけ」笑顔を増やす。

JIPANG 株式会社 ジパング

ディレクター
新村 明男 a-niimura@jipang.co.jp

〒544-0033 大阪市生野区勝山北 3-15-11
 Tel:06-6741-2809 Fax:06-6715-2809
<http://www.jipang.co.jp/ap/>



中外日報社 広く深くつなぐ 宗教専門紙

財務委員
中島 信幸

京都本社 〒601-8004 京都市南区東九条東山三町9番地
 TEL 075-682-3351 FAX 075-671-2103
 E-mail: keiri@chugainippoh.co.jp
 東京支社 〒113-0033 東京都文京区本郷4丁目9番13号
 TEL 03-3816-4721 (代) FAX 03-3811-5222
 ご購読のお申し込みは URL <https://www.chugainippoh.co.jp> ☎0120-015-177

経営革新等認定支援機関

横田聡税理士事務所 税理士
 ファイナンシャルプランナー
横田 聡
 SATOSHI YOKOTA

〒604-8151
 京都市中京区錦町東入道御町224 SCHOKA304号
 TEL 075-398-8207 FAX 075-266-2208
 URL <https://www.s-yokotax.com>
 E-mail: yokota.satoshi@cnf.or.jp



PwC 京都監査法人
 〒600-8008
 京都市下京区四条通烏丸東入ル
 京都三井ビル7階
 電話 075 241 1906
 FAX 075 241 1902
 keichiro.k.kagi@pwc.com

鍵 圭一郎
 パートナー
 公認会計士



同志社大学同窓会
 執行理事 (名古屋プロジェクト担当)

岩村 稔

Email: iwachan26de@gmail.com
 Mobile:09012846501

クチュールガゼル

代表 **早瀬孝行**

川西店 〒666-0033 兵庫県川西市栄町10-5 パルティ川西 TEL 072(757)1805
 千里山店 〒565-0851 大阪府吹田市千里山南1丁目41番35号 TEL 06(6337)4662
 e-mail: hayase1406@yahoo.co.jp

取締役会長
松井 信五
 s-matsui@koekisha-kyoto.com
 HP 090-1073-4667

株式会社 **公益社**
プライトホール
 家族葬専用 別邸

0120-004-200 24時間受付
 〒604-8161 京都市中京区烏丸通六角上ル
 TEL/075-221-4000 FAX/075-241-0420
 URL <https://www.koekisha-kyoto.com>

株式会社 **京進**

代表取締役 会長
立木 貞昭
 Tachiki Sadaaki

0120-004-200
 〒600-8177 京都市下京区烏丸通五条下ル大坂町382-1
 TEL 075-365-1500 (代表) FAX 075-365-1521
 E-mail: tachiki@kyoshin.co.jp URL <https://www.kyoshin.co.jp/>



京都銀行グループ
京銀カードサービス株式会社

代表取締役
 カード事業部長
宮村 定男

〒600-8216
 京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町731番地
 京都銀行京都駅前ビル
 TEL (075)344-2211 (代表) FAX (075)344-2545
 E-mail: sa_miyamura@kyotojcb.jp
<http://www.kyotojcb.jp>



中 谷 豊 (宗) 美

〒606-8301
 京都市左京区吉田東殿町四七
 TEL/FAX 075-761-2925

西村公認会計士事務所
 NISHIMURA C.P.A. OFFICE

公認会計士 / 税理士
西村 猛

〒604-8175
 京都市中京区室町御池下ル円福寺町 342-1
 VOICE21 ビル 303号
 TEL 075-708-8147 FAX 075-708-8767
 携帯 090-3926-4781
 E-mail: nishitake@soleil.ocn.ne.jp

がんりょうドサービス株式会社
 特別顧問 **志賀 茂**

〒531-0035
 大阪府淀川区新北野 丁目二十三
 明徳安田生利十三号八階
 TEL 06-6330-8111
 FAX 06-6330-8111
 E-mail: shige@kanryofood.co.jp




弁護士法人 三ツ星
経済産業大臣認定 経営革新等支援機関

廣石 佑志
hiroshi@mitsuboshi-law.jp
〒541-0045 大阪市中央区道修町3-2-6 ウェムラビル5階
地下鉄淀屋橋駅11番出口徒歩3分 京阪電車淀屋橋駅8番出口徒歩5分
TEL: 06-6222-3035 FAX: 06-6222-3036
http://www.mitsuboshi-law.jp/

弁護士
 中小企業診断士
 経営心理士
 キャッシュフローコーチ
 公認不正検査士
 医療経営士(2級)
 介護福祉経営士(1級)

株式会社 齊藤 総研
齊藤賢一 公認会計士事務所
齊藤賢一 税理士事務所

公認会計士 齊藤 賢一
税理士

〒600-8035 京都市下京区寺町通高辻下ル京極町488 More河原町1号館 201号
TEL 080-5352-0594
E-mail: kenichi.saito@sage.ocn.ne.jp



中野 耕太郎
kotaro_nakano@nakano-seiyaku.co.jp

代表取締役会長

中野製菓株式会社
〒607-8141 京都市山科区 東野北井ノ上町 6-20
TEL: 075-802-7215 FAX: 075-581-1811
www.nakano-seiyaku.co.jp

日々美をともに

土橋 労務管理事務所
DOBASHI HUMAN RESOURCE MANAGEMENT OFFICE

所長 特定社会保険労務士
土橋 純二郎

〒540-0031 大阪市中央区北浜東6番6号 アクアタワー4F
電話 06-4397-3630(代) FAX 06-4397-3631
E-mail: jdobasi@arion.ocn.ne.jp
www.dobashi-roumu.gr.jp


不動産 売買・仲介・管理
有限会社 いい京都

執行役員 橋本 義彬
宅地建物取引士

〒604-8313 京都市中京区猪熊通御池下ル三坊猪熊町北組373-1
TEL (075)812-3000 FAX (075)812-3055
☎ 0120-84-5252 携帯 090-1712-3731
E-mail: y.hashimoto@ii-kyoto.com


株式会社 彩里
京知(8)第8307号 創業1987年 (一社) 相続相談センター運営企業

公認不動産コンサルティングマスター・宅地建物取引士
 福祉住環境コーディネーター2級・賃貸不動産経営管理士
 2級FP技能士・国内旅行業務取扱管理者

代表取締役 三輪 幸徳

〒616-8352 京都市右京区嵯峨大沢落久保町5-1 きぬかけの道 広沢池西へ
TEL 075-432-7655 FAX 075-432-7835
携帯 080-3813-5523 MAIL miwa.yukinori@saito-kyoto.com


佐野 克也
代表取締役社長

パソナ・パソニック ビジネスサービス株式会社
〒540-0031 大阪市中央区北浜東4番33号 北浜ネクスビル
〒107-0062 東京都港区南青山3丁目1番30号
Tel 06-6910-1380
www.pasona-pbs.co.jp/ sano.katsuya@pasona-pbs.co.jp


business process outsourcing partner



齋藤 齋
Itsuki Saito

CEO 代表取締役社長

株式会社 ベルコ
本部/〒563-8555 大阪府池田市荒尾1丁目12-10
Bellico Co., Ltd.
1-12-10,Kuko, Ikeda-shi, Osaka 563-8555, Japan
Tel:06-6850-2292 Fax:06-6850-3262

今日庵御家元御用命
茶道美術
株式会社 玉栄タカギ

高木 修

(目) 〒602-0894 京都市中京区錦町1-1-11 錦ビル1101号室
(念) 〒602-0894 京都市中京区錦町1-1-11 錦ビル1101号室
☎ 075-325-5036 (直通) TEL 075-313-8112 (代表)
FAX 075-321-8312 E-mail: yasuo.yamashita@tacriba.com
https://www.horiba.co.jp


同志社大学経済学部 同経会

理事 田島 繁 SHIGERU TAJIMA

自宅: 〒601-1381 京都市伏見区醍醐御室ヶ下町27-24
HOME: 27-24 GORYOGASHITA, DAIGO, KYOTO 〒601-1361 JAPAN
TEL&FAX 075-571-6074
E-mail: stjilucky777@gmail.com


ココロをつなぐ、あしたへはこぶ。

いつものお出掛けが もっと楽しくなるMeoSアプリ

執行役員 財務部長 川津 智典

名古屋鉄道株式会社
名古屋市中村区名駅1-2-4 〒450-8501
TEL: 052-588-0820 FAX: 052-588-0823
E-mail: tomonori.kawatsu@nrr.meitetsu.co.jp
https://top.meitetsu.co.jp/


ダウンロードは こちらから




コーポレートオフィサー 総務本部長

山下 泰生

株式会社堀場製作所
〒601-8510 京都市南区宇治本町の東町2番地
TEL 075-325-8036 (直通) TEL 075-313-8112 (代表)
FAX 075-321-8312 E-mail: yasuo.yamashita@horiba.com
https://www.horiba.co.jp

Automotive | Process & Environmental | Medical | Semiconductor | Scientific
Explore the Future

寄付へのお礼とご報告

同経会では経済学部並びに経済学部在学学生への貢献と、卒業生のメリットとなる企画を立案し実践すべく活動の一層の強化を目指しております。この活動の基盤となる同経会の財務基盤強化を図る目的に寄付をお願いしましたところ、多くの名誉顧問の皆様のご理解とご賛同を頂戴し、総額260万円のご寄付を賜りました。ここに心よりお礼を申し上げますと共に、会員の皆様にご報告申し上げます。

昭和33年卒業	名誉顧問	播島 幹長 様	1,000,000円
昭和55年卒業	名誉顧問	河合 一郎 様	500,000円
昭和34年卒業	名誉顧問	森本 弘道 様	150,000円
昭和34年卒業	名誉顧問	細見 吉郎 様	50,000円
昭和37年卒業	名誉顧問	渡邊 隆夫 様	50,000円

ご芳名のみ

昭和21年卒業	名誉顧問	千 玄室 様
昭和32年卒業	名誉顧問	井上 礼之 様
昭和33年卒業	名誉顧問	福井 正憲 様

昭和52年卒業 会長 田堂 哲志 様 200,000円

匿名
50,000円 1件



訃報

謹んでご冥福をお祈りいたします

Obituary

名誉教授 星名 倫先生

大学名誉教授 星名 倫様 (89歳)
10月2日に永眠されました。

教授 佐竹光彦先生

大学経済学部教授 佐竹光彦様 (66歳)
6月23日に永眠されました。

特別客員教授 二神孝一先生

大学特別客員教授 二神孝一様 (64歳)
3月24日に永眠されました。

名誉顧問 中野淑夫様

名誉顧問 中野淑夫様 (89歳)
7月28日に永眠されました。

執行理事 辻川茂樹様

執行理事(東京チーム)辻川茂樹様 (79歳)
3月26日に永眠されました。

執行理事 岸田 博様

執行理事(大阪チーム)岸田博様 (71歳)
5月8日に永眠されました。

編集後記

執行理事 広報HPチーム 三輪 幸徳

Editor's note

同経会報が皆様のお手元に届く時期は、新緑の頃と伺っています。編集後記を書いている「今」は、梅が満開となり、春を迎える欲びに溢れており、京都が織りなす四季の移ろいは、私達を変わず見守ってくれています。しかし、コロナ禍によって、同志社経済学部校友の皆様の働く環境・状況は大きく変化があったのではないのでしょうか。

変化が必要となる時代だからこそ、新島先生の遺言「同志社ニ於てハ個儻不羈(てきとうふぎ)なる書生ヲ庄束せず務めて其の本性ニ従ひ之ヲ順導す可き以て天下の人物ヲ養成す可き事」という言葉を思い出します。常識や固定観念に囚われず、自由に振る舞い、一国の良心を持った人物に育てるといふ同志社教育。その本懐は、変革期にこそ発揮されるべきものです。同志社人として、変化を恐れず、新しいことにチャレンジしていく新島先生の想いと行動力を胸に、手を取り合って進んでいきましょう。

同経会も田堂会長の旗振りの元、大きく変化しようとしています。組織体制の再構築や、若手の参画を促す企画立案、ホームページの改善、そして同経会同志

社大経済学部 ob・og 会 FACEBOOK ページを作成しました。フォローいただいている約300名の校友の皆様へ、同経会の最新情報をリアルタイムでお伝えできるようになりました。更にフォローを増やして、500名・1000名と増やしていきたいと考えています。まだ登録されていない方は、同経会報に記載のQRコードから、登録頂けると幸いです。

末筆となりますが、同経会報の執筆にご協力頂きました皆様、改めて御礼申し上げます。今後とも、同経会での活動へのご協力をお願いしますと共に、校友の皆様のご発展を祈念し、結びとさせていただきます。

〈同経会 公式 facebook〉

同経会 - 同志社大学経済学部 ob・og 会 -

お持ちのスマートフォンのカメラで下のQRコードを読み取り、「いいね!ボタン」を押してください!
公式WEBサイトの更新情報、同経会で開催されるイベントをリアルタイムで発信・お知らせいたします!



経済学部卒業生の方は
ぜひご登録ください!

<https://www.facebook.com/dokeikai.doshisha/>



同経会の役員紹介

役名	委員会	氏名	卒業年
名誉顧問		千 玄室	昭和21年
名誉顧問		辻本 光彦	昭和25年
名誉顧問		川勝 泰司	昭和28年
名誉顧問		秋山 哲	昭和32年
名誉顧問		井上 礼之	昭和32年
名誉顧問		福井 正憲	昭和33年
名誉顧問		播島 幹長	昭和33年
名誉顧問		森本 弘道	昭和34年
名誉顧問		細見 吉郎	昭和34年
名誉顧問		西口 廣宗	昭和34年
名誉顧問		岩崎 隆	昭和35年
名誉顧問		吉田 忠嗣	昭和35年
名誉顧問		小嶋 淳司	昭和37年
名誉顧問		渡邊 隆夫	昭和37年
名誉顧問		高木 壽一	昭和39年
名誉顧問		服部 盛隆	昭和41年
名誉顧問		岡田 博邦	昭和46年
名誉顧問		北尾 哲郎	昭和46年
名誉顧問		昌尾 一弘	昭和46年
名誉顧問		村田 恒夫	昭和49年
名誉顧問		河合 一郎	昭和55年
名誉顧問		八田 英二	特別
名誉顧問		宮本 大	特別
会長		田堂 哲志	昭和52年
副会長	会員増強委員会担当	小川 佳秀	昭和50年
副会長	財務委員会担当・委員長	小平 真滋郎	昭和55年
副会長	総務支援委員会担当	荒木 勇	昭和59年
副会長	企画委員会担当・委員長	中村 恭俊	昭和60年
専務理事		鍵 圭一郎	平成1年
監事		小杉 將之	平成1年
監事		横田 聡	平成3年
執行理事	会員増強(東京)	濱田 浩貴	昭和40年
執行理事	総務支援(つどい)	山本 忠男	昭和40年
執行理事	総務支援(つどい長)	近藤 和夫	昭和44年
執行理事	会員増強(東京長)	高橋 健治	昭和44年
執行理事	企画	立木 貞昭	昭和44年
執行理事	総務支援(つどい)	松井 信五	昭和45年
執行理事	総務支援(つどい副)	今出 健一	昭和46年
執行理事	会員増強(大阪)	志賀 茂	昭和47年
執行理事	会員増強(名古屋)	萱原 昇	昭和49年
執行理事	総務支援(名簿長)(つどい)	西村 猛	昭和49年
執行理事	総務支援(つどい)	松尾 卓志	昭和49年
執行理事	総務支援委員長	中島 信幸	昭和50年
執行理事	総務支援(総務)	奥 敏郎	昭和51年
執行理事	総務支援(つどい)	長田 宏	昭和52年
執行理事	総務支援(インターンシップ)	神山 研一	昭和52年
執行理事	企画	石塚 清司	昭和53年
執行理事	財務	伊豆蔵 健之	昭和53年
執行理事	会員増強(大阪副)	新村 明男	昭和53年
執行理事	会員増強(大阪副)	早瀬 孝行	昭和53年
執行理事	会員増強(副委員長・名古屋長)	岩村 稔	昭和54年
執行理事	総務支援(つどい)	谷村 俊治	昭和54年
執行理事	総務支援(広報長)	中谷 豊美	昭和54年
執行理事	企画	村田 市郎	昭和54年
執行理事	総務支援(総務)	高田 啓史	昭和56年
執行理事	会員増強(京都)	牧野 正裕	昭和56年
執行理事	会員増強(京都長)	宮村 定男	昭和56年

役名	委員会	氏名	卒業年
執行理事	総務支援(インターンシップ)	吉井 英雄	昭和57年
執行理事	会員増強(東京副)	田村 憲一	昭和58年
執行理事	会員増強(委員長・大阪長)	土橋 純二郎	昭和58年
執行理事	企画	中野 耕太郎	昭和58年
執行理事	総務支援(総務)	若田 昌宏	昭和58年
執行理事	会員増強(東京副)	阿部 聡一	昭和59年
執行理事	総務支援(インターンシップ)	鎌田 伸一	昭和59年
執行理事	総務支援(総務長)	藤井 宏樹	昭和59年
執行理事	会員増強(東京)	末永 雅春	昭和60年
執行理事	企画	久保 行央	昭和61年
執行理事	企画	齋藤 喬	昭和61年
執行理事	会員増強(大阪)	佐野 克也	昭和61年
執行理事	企画	松井 勝史	昭和61年
執行理事	会員増強(大阪)	小原 康正	昭和62年
執行理事	会員増強(京都)	山下 泰生	昭和62年
執行理事	会員増強(京都)	遠藤 裕策	昭和63年
執行理事	企画(副)	沼井 哲男	昭和63年
執行理事	会員増強(東京)	今井 素子	平成1年
執行理事	会員増強(しめた)	前田 敦	平成2年
執行理事	会員増強(大阪)	山神 孝志	平成2年
執行理事	企画	川井 成人	平成2年
執行理事	会員増強(名古屋)	川津 智典	平成4年
執行理事	会員増強(しめた長)	齊藤 賢一	平成4年
執行理事	会員増強(大阪)	清水 友紀	平成6年
執行理事	会員増強(しめた)	高木 伸浩	平成6年
執行理事	会員増強(京都)	伊藤 弥生	平成7年
執行理事	会員増強(大阪)	植田 健一	平成7年
執行理事	会員増強(名古屋)	近藤 裕幸	平成7年
執行理事	会員増強(東京)	志井 慶吾	平成9年
執行理事	会員増強(大阪)	馬場 圭吾	平成12年
執行理事	会員増強(しめた)	廣石 佑志	平成13年
執行理事	会員増強(しめた)	中元 栄智	平成14年
執行理事	会員増強(大阪)	八木 香織	平成14年
執行理事	会員増強(大阪)	山口 貴司	平成15年
執行理事	会員増強(しめた副)・総務支援(HP長)	三輪 幸徳	平成22年
執行理事	会員増強(しめた)・総務支援(HP)	小垂葉 亮	平成23年
執行理事	会員増強(名古屋)	関本 駿	平成24年
執行理事	会員増強(しめた)・総務支援(HP)	橋本 義彬	平成26年
執行理事	会員増強(しめた)	小寺 友樹	平成26年
執行理事	会員増強(しめた)	熊田 里沙	平成27年
理事		橋本 久幸	昭和38年
理事		山本 清	昭和40年
理事		田島 繁	昭和41年
理事		高橋 修	昭和44年
理事		巖庭 一慶	昭和46年
理事		池田 博義	昭和46年
理事		山本 源兵衛	昭和49年
理事		山添 俊之	昭和55年
理事		大谷 淳子	平成16年
理事		鹿野 嘉昭	特別
理事		北川 雅章	特別
理事		竹廣 良司	特別
理事		新聞 三希代	特別
理事		谷村 智輝	特別
理事		横井 和彦	特別
理事		角井 正幸	特別

※2023年4月1日現在